

白井市の景観・みどりの特性（案）【更新版】

(1) 前回（第2回）部会からの主な修正点 ⇒ゾーン・エリア・ブロック分けの再考

- ・ 前回部会で共有したゾーニング図では、市街化調整区域については「共生ゾーン」「自然ゾーン」とし、その中で細かくブロック分けを行っていた。
- ・ 「共生ゾーン」については「台地」「谷津田」「田園」等、地形や土地利用に準じてブロック分けを行い、「自然のゾーン」については植生図から樹林地や湿地・草地がまとまっている範囲でブロック分けを行っていた。
- ・ 一方で、ブロックの境界線を引く根拠が曖昧であることや、特に「台地」ブロックについては市のほとんどの区域が台地であるため、具体的に市内のどこの範囲について言及しているか分かりづらいという課題があった。

↓

- ・ 上記の課題や、地区別ワークショップで出た景観・みどりの資源の内容もふまえ、市街化調整区域は原則として、「地形・植生・土地利用等の特性がある程度似ている町字の範囲」をブロックとして設定した。

(2) 具体的な修正・更新事項（※主要なもの）

ページ		内容	修正前	修正・更新内容
p.29	修正	ゾーン名・エリア名	・ 共生のゾーン ・ 自然のゾーン	・ 農と住まいのゾーン ・ その中で「低密度住宅のエリア」と「農地のエリア」を設定 ・ 里地里山のゾーン ・ その中で「樹林地のエリア」「谷津のエリア」「水辺のエリア」を設定
			—	・ 北総線や国道 464 号は桜並木や富士山・夕日を眺められるビュースポットになっており、地域住民にとっても大事な場所となっているため、「景観とみどりの骨格軸」として設定
p.31、32	修正	農と住まいのゾーン・里地里山のゾーンのブロック分け	—	・ 「ブロックの範囲」について表で整理 ・ 各ブロックの範囲を、原則として町字の範囲で設定
p.33～	更新	各ブロックにおける景観・みどりの資源	—	・ 各ブロックにある景観・みどりの資源について、「白井市の景観・みどりの特性を把握するための視点」で挙げた「地形」「歴史」「生態系」「土地利用」の4つの切り口で整理 ・ 資源を示す写真と、資源の位置を示す地図を各ブロックで掲載
p.76	修正	ゾーニング図	—	・ ゾーニング図を修正

(3) 今後更新予定の内容

- ・ 「1.3 生態系」の中で、白井市の生態系の機能についてデータをもとに整理

白井市の景観・みどりの特性(案)

1. 白井市の景観・みどりの特性を把握するための視点

白井市は北総台地と川沿いの低地で構成され、台地の縁は「谷津」と呼ばれる小さな谷が多数存在し、これらの地形的特徴が現在の景観・みどりの基盤となっている。また、台地上に形成された古代のムラや近世の宿場・牧など、地形的な特徴は古来人々の生活に密接に関わり、それが歴史・文化を形成してきた。植生は地形的な特徴に対応するように分布しており、その地形的特徴や植生から白井市の生態系は形成されている。また、地形や植生を活かすように土地利用が進み、人々の生活が形成されてきた。

以上の観点から、白井市の景観・みどりを把握するための視点として「地形」「歴史・文化」「生態系」「土地利用」の4つのキーワードがあり、それらがレイヤーとなって重なり、現在の白井市の景観・みどりが形成されていると捉える。

地形	・北総台地と川沿いの低地、谷津等の特徴を有する ・古来白井の人々の生活・活動や歴史・文化等の基盤となっている
歴史・文化	・景観・みどりの形成の履歴 ・現在の白井の人々の生活・活動に密接に結びつく
生態系	・地形や歴史・文化が基盤となり形成されてきた自然の営み ・動植物の生活・活動が表出する
土地利用	・地形や歴史・文化が基盤となり形成されてきた人間の営み ・人々の生活・活動が表出する

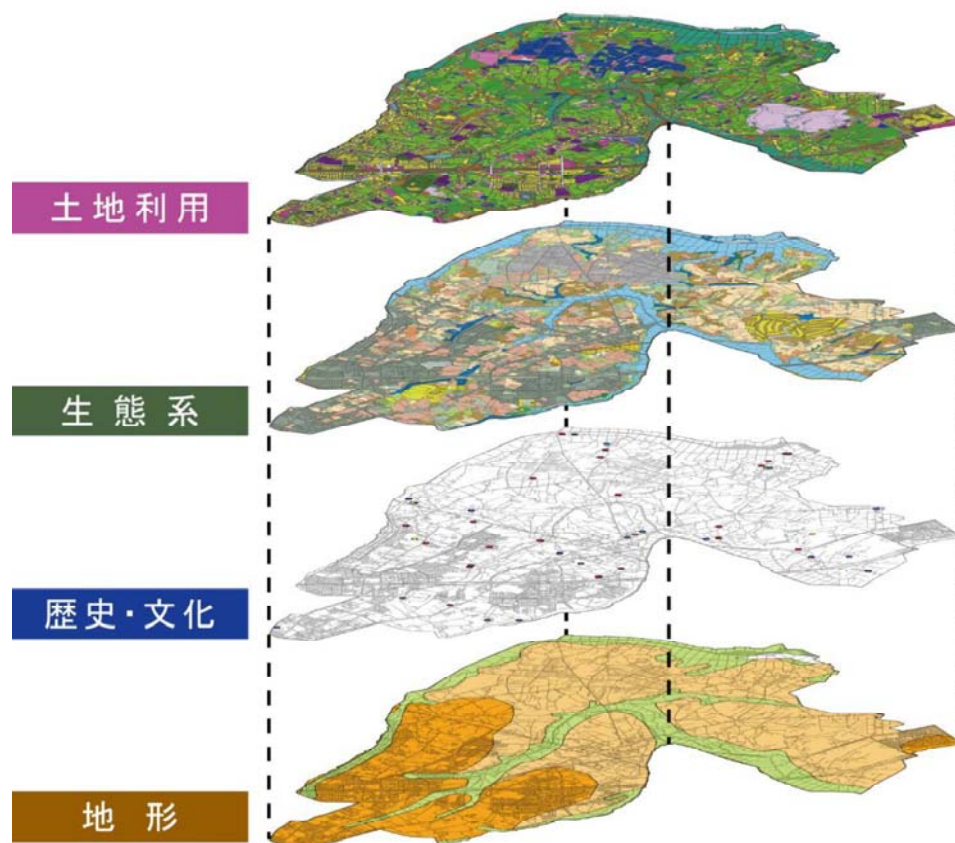


図 白井市の景観・みどりを把握するための視点

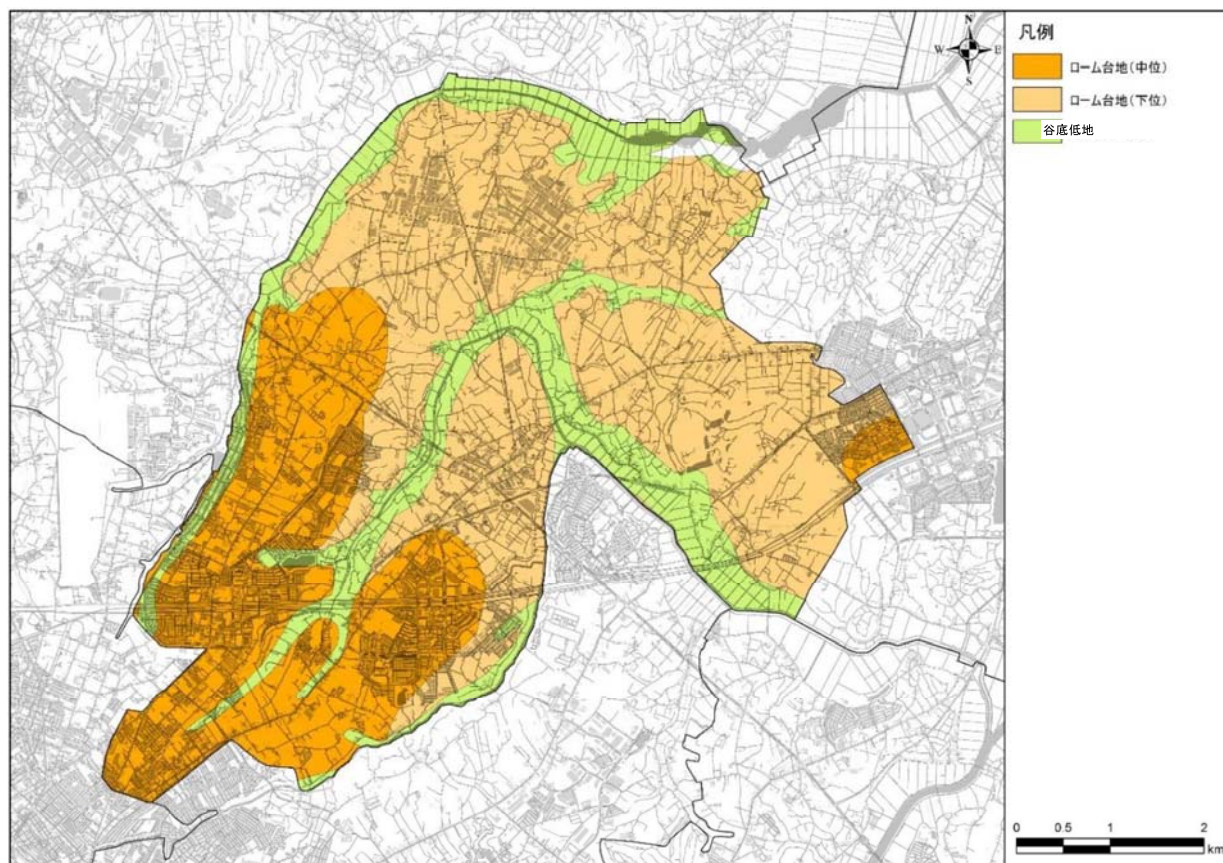
1.1 地形

(1) 地形の成り立ち

白井市の大部分は約 12 万年前に海底が隆起して形成された標高 20 メートルから 30 メートルの平坦な台地と、標高 5 メートルから 20 メートルの低地で構成されている。

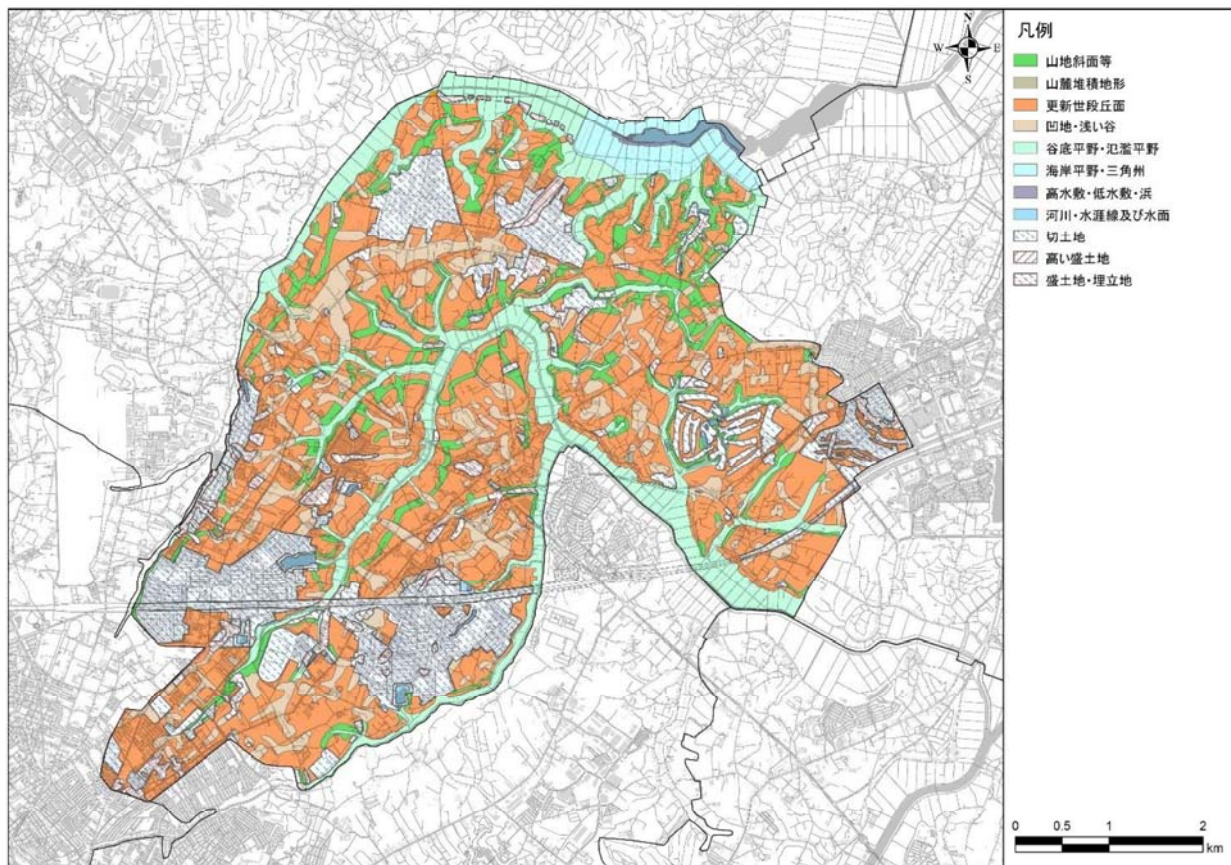
台地の縁には「谷津」と呼ばれる小さな谷が多数存在しており、台地に降った雨は地下にしみ込み地下水になる。地下水は大地と谷津が接する斜面下（谷津の縁）で湧水として地上に現れ、この湧水が集まって河川が形成され、さらにその河川が集まって、北側は下手賀沼に注ぐ金山落、南側には印旛沼へ流れ込む神崎川や二重川が形成されている。

白井市は、このように長い時間をかけて形作られた台地と低地、その間の斜面（河岸段丘）に生育する樹林による自然的な景観と集落、湧水を活かした谷津の水田（谷津田）、河川沿岸の低地に広がる水田、関東ローム層による肥沃な台地に展開された農地などが基本的な構成となっている。



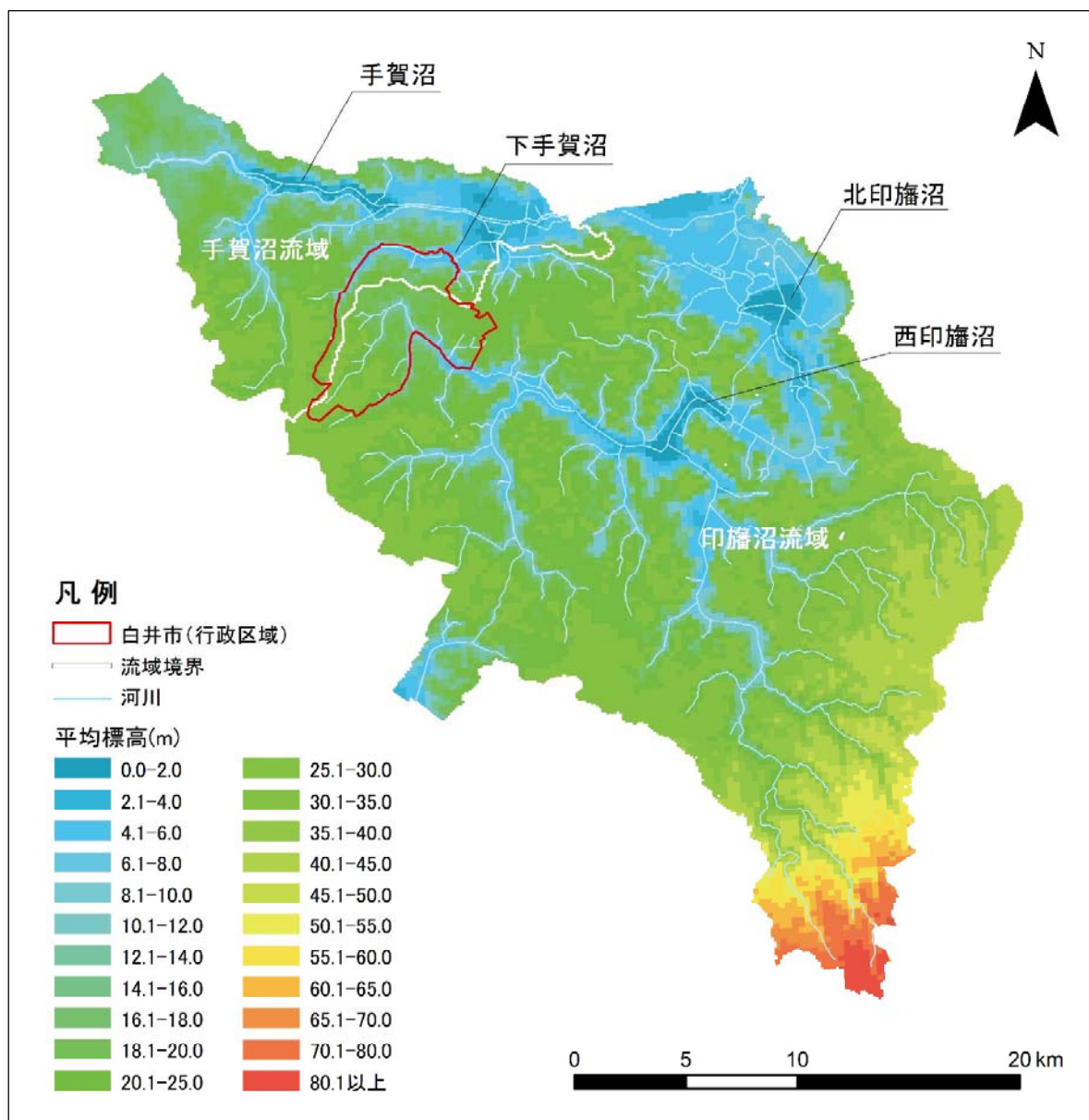
(出典：国土数値情報ダウンロードサイト「20 万分の 1 土地分類基本調査 (GIS データ)」(千葉県)
(<https://nlftp.mlit.go.jp/ksj/index.html>) を加工して作成)

図 地形分類図



(出典：地理院地図（電子国土 Web (<https://maps.gsi.go.jp/>) を加工して作成)

図 土地条件図



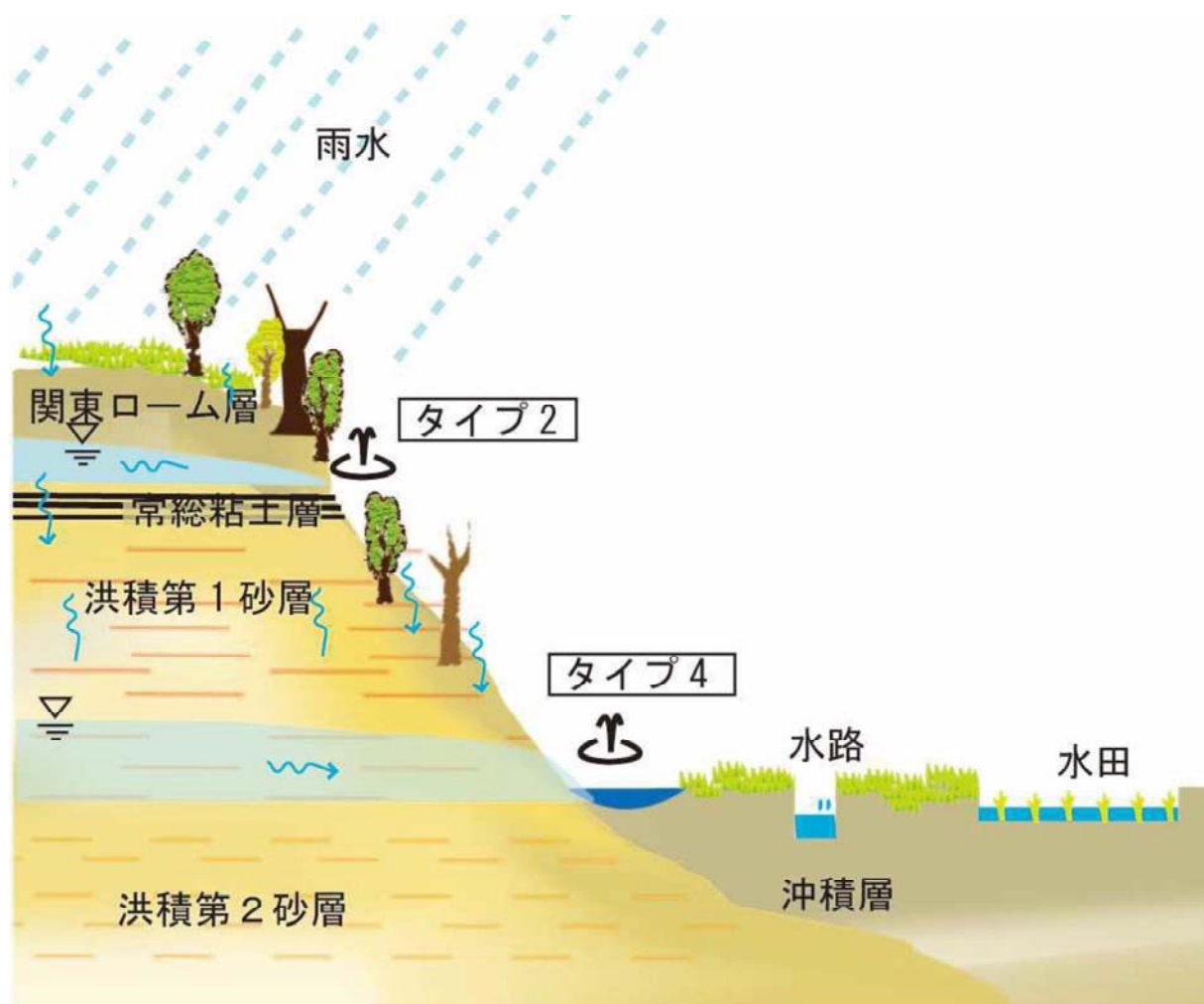
(出典：国土数値情報ダウンロードサイト「流域メッシュ」、「河川(ライン)(ポイント)」、「標高・傾斜度5次メッシュ」、「行政区域(ポリゴン)」(国土交通省)(<https://nlftp.mlit.go.jp/ksj/index.html>)を加工して作成)

図 白井市が属する流域と地形

(2) 手賀沼流域の概要

手賀沼は、千葉県の北西部にあり、干拓事業により現在は手賀沼と下手賀沼に分かれた形となっている。下手賀沼流域では、金山落などの河川が下手賀沼に注ぎ、下手賀沼から下手賀川を経て、亀成川、手賀川と合流した後、最終的に利根川に流入する。

手賀沼は縄文海進時（約1万年前頃）に形成された海跡湖で、周辺は台地に囲まれている。手賀沼流域は、粘土質の高い関東ローム層や粘土層及び砂層で構成された台地と、これが浸食された谷津と呼ばれる谷底低地、および谷津に面した斜面や崖といった地形要素から構成されている。谷津からは、台地に涵養された地下水が湧水として湧出し、流域の生態系や人々の暮らしの基本的な要素となっている。



タイプ2：湧水は、常総粘土層の上面の主に台地斜面上から湧出する。

タイプ4：洪積第一砂層中より湧出するタイプで、洪積第一粘土層が分布していない地域で見られる。

白井市で見られる湧水は、このタイプに含まれる。

(出典：『手賀沼水循環回復行動計画』（千葉県、2022年12月改定））

図 手賀沼流域（南部）の地下水涵養・地下水流動と湧水の模式図

【令和4年度】



No. 12 名内字下定戸谷



No. 13 名内字屋敷附



No. 14 中宇西山



No. 15 平塚字榎台



No. 16 名内字入谷

【令和5年度】



No. 12 名内字下定戸谷



No. 13 名内字屋敷附



No. 14 中宇西山



No. 15 平塚字榎台



No. 16 名内字入谷

※硝酸性窒素は、水中では硝酸イオンとして存在している。湧水の曹参性窒素濃度が高い場合には、周辺の土壌等から硝酸イオンが混入していると考えられる。硝酸イオンの負荷源としては、家畜のふん尿や生活排水に含まれるアンモニウムが酸化されたものや、農地の肥料等が考えられる。地下水の環境基準（硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素）は10mg/L以下とされており、それを超えるのは望ましくない。

（出典：手賀沼水環境保全協議会ホームページ（https://www.tesuikyo.jp/?page_id=2054）より作成）

図 手賀沼流域の湧水調査結果

(3) 印旛沼流域の概要

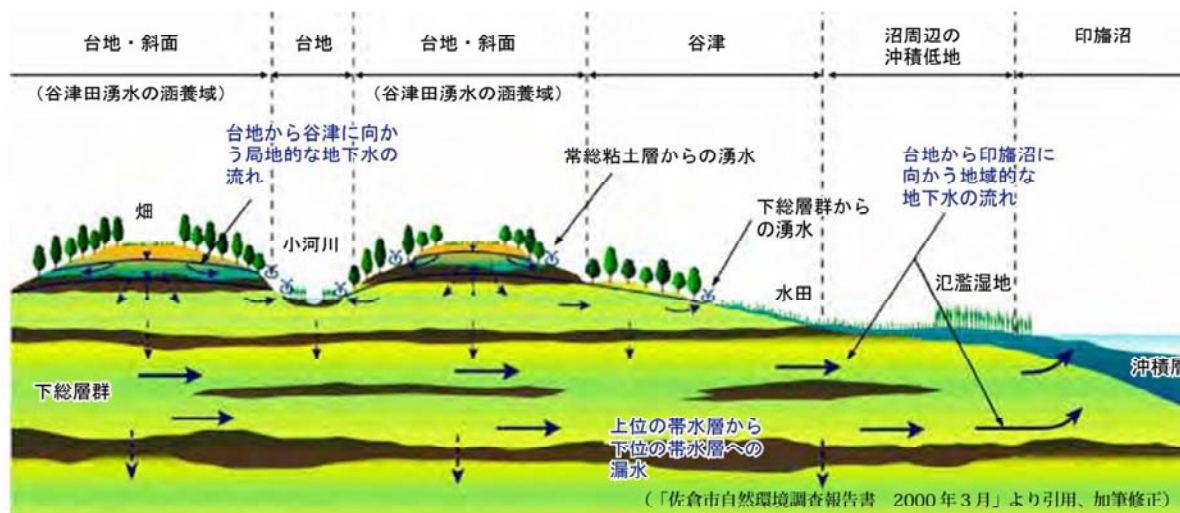
印旛沼は、千葉県の北西部に位置し、北印旛沼と西印旛沼に分かれており、西印旛沼には鹿島川・高崎川・手繰川・神崎川・印旛放水路（新川）・桑納川・師戸川等の河川が、北印旛沼には江川・松虫川等が流入し、印旛沼の水は、長門川を通して利根川に流れている。

神崎川は、白井市根にその源を発し、北東に流れた後、南東に向きを変え、支川を合流しながら、印旛放水路（新川）に流入する河川で、涵養域である台地では市街地が広がるが、下流部では谷津や斜面林が残る。

印旛沼流域は、台地（下総台地）とこれを浸食している谷津と呼ばれている谷底低地、及び谷津に面した斜面や崖から構成されている。台地は保水性・透水性の優れた関東ロームと呼ばれる土層で覆われ、台地や斜面に降った雨は、地表水として流下し、または地下へ浸透して、湧水となって印旛沼に流入する。さらに、上位の帯水層から下位の帯水層（下総層群）へと浸透する流れも存在しており、この水もいずれは印旛沼へ流入する。印旛沼流域では、このような地形を背景に、谷津頭や斜面からの豊富な湧水が湧出して、流域の自然環境や人の暮らしの基本的な要素となっている。

印旛沼流域は、戦後の高度成長とともに人口が増加し、特に首都圏に近い西部において市街化・宅地化等が進んだ。この土地利用の変化により、雨水が地下に浸透しにくくなり、湧水が減っている。また、表面流出（雨水が地下浸透せず地表面を流れること）が増加し、道路冠水や住宅の浸水等の水害が発生している。

■印旛沼流域の概要



(出典：『印旛沼・流域再生 恵みの沼をふたたび印旛沼流域水循環健全化計画』（千葉県、2010年3月））

図 印旛沼流域の地形構造とその変遷

1.2 歴史・文化

(1) 古代～中世：下総台地上のムラとしての発展

白井市が位置する下総台地は、約 180 万年前に始まる第四紀更新世中に繰り返し訪れた氷期・間氷期に伴う海水面の変動や激しい地殻変動、富士・箱根を給源とする火山灰降下によって形成された。縄文時代～古墳時代の遺跡からは石器や土器等が出土しており、肥沃な土壌に恵まれた台地上に人々が集まり、ムラが形成されていたことがうかがえる。

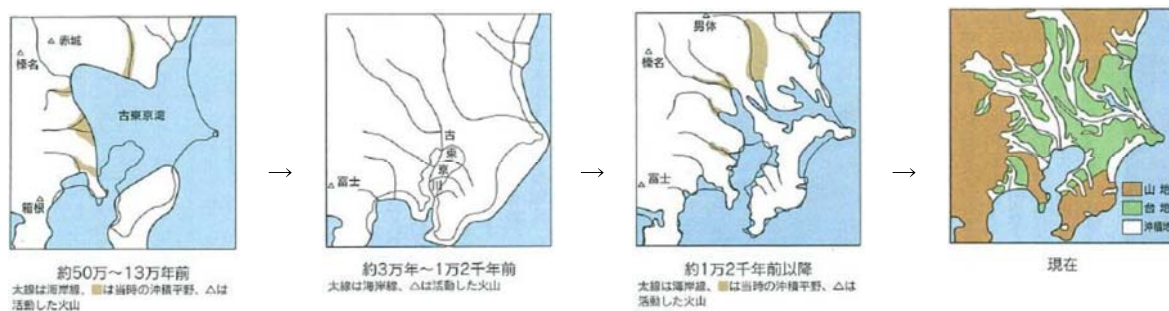


図 下総台地の成り立ち



図 弥生時代後期の土器
(捕込附遺跡 1・2 号住居跡出土)



図 古墳時代の石製模造品
(復山谷遺跡 120 号住居跡出土)

(出典：『白井のあゆみ：白井市郷土資料館 10 周年記念誌』（白井市郷土資料館 編, 2005 年）

(2) 近世（江戸時代）：道・宿場町の発展、牧の整備

① 道の整備・宿場町としての発展

江戸時代になり、港町銚子から利根川を経て江戸へ向かう街道が発達した。鹿嶋道（現在の木下街道）はそのうちの1つである。白井市内には鹿嶋道の宿場として「白井宿」が整備され、旅籠や茶屋が並ぶ宿場町として発展した。

また、鹿嶋道とは別に、銚子の魚を新鮮なうちに江戸へ運ぶ道として、鮮魚（なま）道が発達した。鮮魚道沿いの富塚村には牧士の川上家（後述）があり、江戸への木炭輸送の経路でもあった。鹿嶋道と鮮魚道は、江戸への物資供給を担う重要な街道であった。

国指定重要文化財に指定されている滝田家住宅も、道が整備された江戸時代初期に建てられたといわれている。滝田家住宅のある平塚村にはかつて河岸（船着場）があり、利根川・手賀沼の舟運と松戸宿を結ぶ鮮魚道との交通の要地であった。平塚村の河岸の発達が滝田家住宅の成立に影響したことがうかがえる。



（出典：『木下街道展 - 江戸と利根川を結ぶ道』（白井町郷土資料館他編, 2001 年）

図 橋本宿（白井宿）絵図

② 牧（印西牧・中野牧）

下総台地は戦国時代以前から軍馬を育成する牧場（牧）に利用され、周辺の村々が馬の世話をしてきた。そのこともあり、江戸幕府は下総台地に広大な馬の牧場を設置した。江戸時代も軍馬を育成したが、農民に売却され農耕や輸送に利用された。下総台地の西側が小金牧、東側が佐倉牧と呼ばれ、白井市は小金牧のうち「印西牧」と「中野牧」の範囲に入っている。各牧は周囲に野馬除土手や堀を巡らせ、野馬の村への進入を防いでいた。現在も野馬除土手の一部が残存している。

日常の牧場の管理責任者は牧士（もくし）とよばれ、白井市域では、富塚の川上家と中村家、中木戸の風間家、白井木戸の後藤家があった。川上家では、幕府の寛政の改革に伴い川上右仲（うちゅう）が牧士に任命されると、牧場内のクヌギを活用した木炭の製造に力が入れた。植樹を行い、植えた木から木炭を作り、その木炭を鮮魚道を通して江戸等に出荷していた。



図 印西牧・中野牧位置

(出典：『白井のあゆみ：白井市郷土資料館 10 周年記念誌』（白井市郷土資料館 編, 2005 年）



図 印西牧場之真景図

野馬捕りを眺める多くの見物客の様子が描かれている。

(出典：『木下街道展 - 江戸と利根川を結ぶ道』（白井町郷土資料館他編, 2001 年）)

(3) 近代（明治・大正）：白井村の誕生

明治時代になると、政府の政策により村の分合が進んだ。明治初期から5回にも及ぶ分合を経て、1889（明治22）年に白井村が誕生した。



①明治初期（1874年頃）



②小村合併後（1875年頃）



③連合村（前期）（1878～1884年）



④連合村（後期）（1884～1889年）



⑤白井村・永治村時代（1913～1954年）

（出典：『白井のあゆみ：白井市郷土資料館10周年記念誌』（白井市郷土資料館 編, 2005年）

図 白井村誕生までの流れ

(4) 近現代（昭和）：都市の形成、産業の発達

① 戦後の開拓事業

第二次世界大戦後、海外からの引揚者や戦争による離職者の就業と食糧問題解決のため、国策として緊急開拓事業が実施された。その一つとして富士地区の開拓が始まった。また、自作農民への農地解放が進み、このことが現在の白井の特産である梨の栽培の広がり大きく寄与した。

② 工業団地の誕生

1970（昭和 45）年に国道 16 号線の千葉 - 白井間が全面開通した。産業道路の性格にあった国道 16 号線の沿線には次々と工業団地が誕生し、市域では 1967（昭和 42）年～1974（昭和 49）年にかけて白井第一・第二工業団地が誕生した。

就業人口比は、1965 年は第一次産業従事者が 70%を占めていたが、1980 年には 20.2%となった。第三次産業従事者が 40.8%、第二次産業従事者が 30.9%となっていることから、20 年あまりで市域の産業構造が大きく変化した。

③ 千葉ニュータウン開発

戦後の高度経済成長で首都圏に人口が集中し、住宅や宅地が都心部で不足していた。そのため政府は 1963（昭和 38）年に強制的な土地収用を認めた新住宅市街地開発法を制定し、公団等による大規模住宅開発を可能にした。千葉県では、成田空港へのアクセスを確保しながら、沿線に宅地を一体として整備し、北総地域の中核都市を形成する「千葉県北部地区新住宅市街地開発事業」が 1969（昭和 44）年に施行決定され、ニュータウン開発が開始した。

1979（昭和 54）年に清水口・大山口地区で初の入居が開始されると、白井市は急激に人口が増加した。商店街や緑豊かな公園、遊歩道なども整備されていき、都市化が進んでいった。



（出典：『白井のあゆみ：白井市郷土資料館 10 周年記念誌』（白井市郷土資料館 編, 2005 年）

図 千葉ニュータウン初期の西白井駅周辺の様子（昭和 55 年）

(5) 近年の動向や今後の展望

全国的にインターネット用のサーバやデータ通信などの装置を設置・運用することに特化した「データセンター」の建設が進んでおり、白井市内にも建設されている。今後も市内でデータセンターの建設が予定されている。

(6) 白井市の民俗

白井市の民俗を伝えてきたのは、家や自治・生活・生産の単位となってきたムラと呼ばれる江戸時代の村に由来する各地区である。都市化が進んだ現在でも、かつてのムラの祭りや行事が残っている。以下は、白井市で現在でも行われている代表的な祭りや行事を示す。

① オビシャ

正月の行事であるオビシャ（歩射／奉射）は弓神事を伴った行事である。法目のオビシャは現在も弓神事行われており、市指定文化財に指定されている。

② 神楽

七次地区では「大日神楽」と呼ばれる神楽が伝承され、現在でも行われている。元旦祭・オビシャ・秋祭りの年三回、神楽連中と呼ばれる舞い手により奉納されている。

富塚地区の神楽は現在行われていないが、「富塚の神楽用具」は市指定文化財に指定されている。

③ 辻切り

辻切りとは、ムラの出入口にあたる境界部に札を立てるなどして、ムラの外から中に疫病や厄災が侵入するのを防ぐために行われる共同祈願のひとつである。富ヶ沢地区で現在も行われている辻切りは、陰陽道や密教などに由来すると考えられる文字や五芒星、縦横各 9 本の格子文が書かれた特徴的な木札を下げたもので、市内を代表する辻切り行事である。



図 法目のオビシャ



図 富塚の神楽



(画像出典：白井市 HP_文化財)

図 富ヶ沢の辻切り

【参考文献】

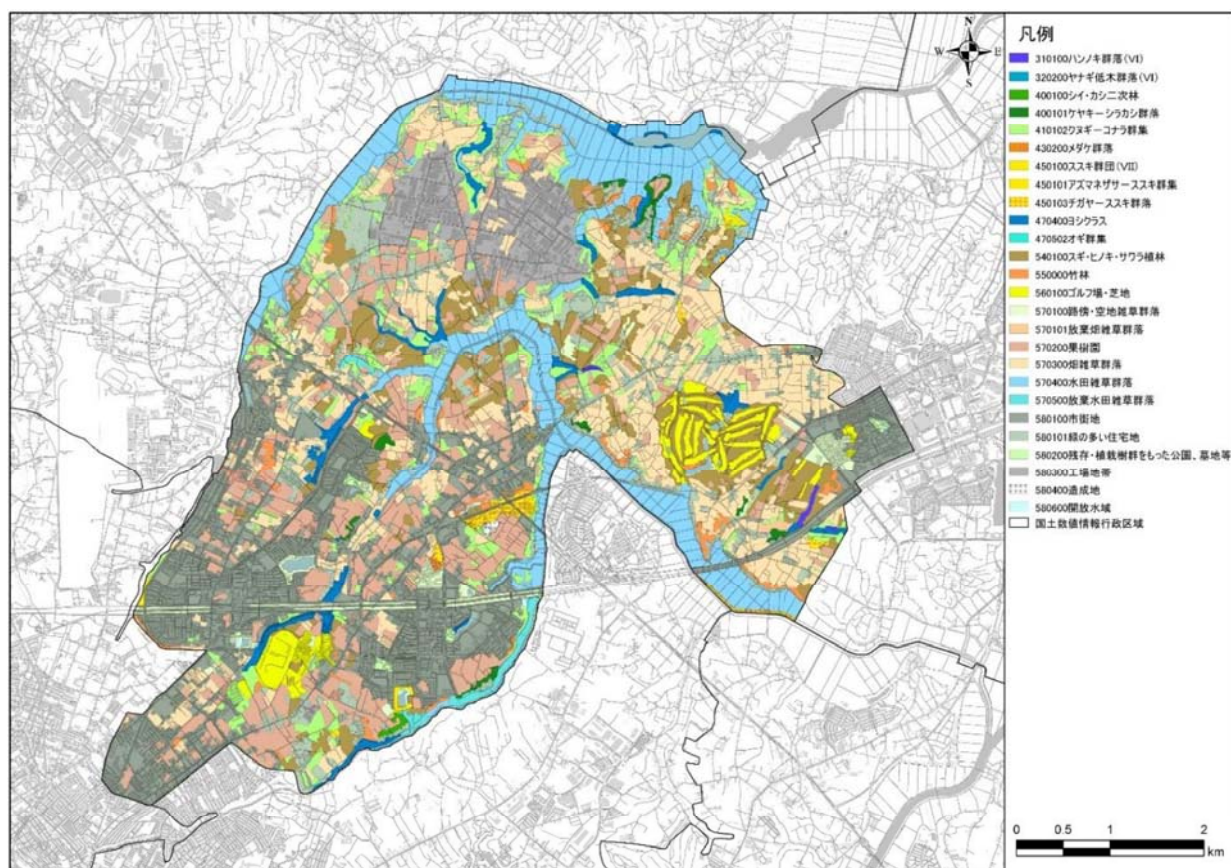
- ・白井市郷土資料館編『白井のあゆみ：白井市郷土資料館 10 周年記念誌』, 2005 年
- ・白井町郷土資料館他編『木下街道展 - 江戸と利根川を結ぶ道』, 2001 年
- ・白井市教育委員会『白井市の民俗 1～民間信仰～』, 2003 年

1.3 生態系

(1) 植生

環境省の現存植生図（2008 年）によると、植生区分として最も面積が大きいのは約 22%を占める市街地であり、畑雑草群落、果樹園、水田雑草群落といった農地は合計で約 40%となっている。次いで、緑の多い住宅地が約 9 %、植林地が約 8 %、工場地帯、クヌギ・コナラ群集がそれぞれ約 5 %となっている。

前述の地形分類図と比較すると、市街地の分布はローム台地（中位）の分布と対応しており、水田雑草群落の分布は谷底低地の分布と対応していることがわかる。



（出典：自然環境保全基礎調査 植生調査(植生自然度調査) 1/2.5 万現存植生図 (<http://gis.biodic.go.jp/webgis/index.html>)（環境省自然環境局）を加工して作成）

図 現存植生図

(2) 動物の生息環境

野生動植物の生息地としての白井市は北西から南東部にかけて走る片側 2 車線の国道 16 号線と、東西に走る北総鉄道とそれと並行する国道 464 号（北千葉道路）によって大きく分断されている。市内の自然環境は昭和 40 年以降に始まった千葉ニュータウンの建設によって狭められ、昭和 50 年以降山林の割合が大きく減少し、宅地や開発予定地が増加した。緑地の残存状況から見ると、野生生物にとって良好かつまとまった自然環境は、国道 16 号と北総鉄道によって分断された市域の北側半分に片寄っている。しかし、船橋市と境を接する二重川流域には船橋県民の森を含む比較的良好な自然環境が残されており、白井市にとっても貴重な環境であると言える。

千葉県の北総地域では、原生的な自然環境はほとんどが消滅しているが、水田、用水路、ため池、雑木林、入り会い共有地の草地や牧草地など、農林業や牧畜に伴う人為的管理によって維持されてきた人里の身近な自然は、日本固有の生物が生息する立地として、それを保全する価値を有している。また、絶滅の危機に瀕する動植物の生息・生育地でもある。

湧水の周辺には、安定した水量と水温に特徴づけられる湿地が発達し、独特な生物相が成立する。また、水田は、耕作に伴う攪乱により、植生が密になりすぎず一定量の解放水面が維持されるため、光や温度条件などが多様化しやすく、多様な湿地性動植物の生息・生育の場となる。湧水と水田を内包する谷津田は、水田生態系の中でも特に多様性の高い生物相が成立しやすい。千葉県内では、スナヤツメ、ホトケドジョウ、サワガニ、オニヤンマなどの水生生物が、谷津田の環境と強く結びついて生息していることが確認されている。また、希少性の高いニホンアカガエルは湧水によって常に水面が維持される谷津が重要な産卵場になっている。

谷田地区は、市内で最も古くに創建され大径木のスダジイが多く生育している宗像神社に隣接しており、サシバの繁殖が確認され、メダカとゲンジボタル、ヘイケボタルが生息する。また、二次草原には貴重な草原性の植物が生育し、かつての印西牧のなごりともいえる歴史的な自然環境が残されていた。これらの地区は現在、北総線と国道 464 号により分断されている。

北部地区にはニホンアカガエル、トウキョウダルマガエル、メダカ、ヘイケボタルが生息し、さらに複数種の猛禽類が越冬していた。台地上には社寺林などの林があり、集落としての歴史も古く、歴史的景観と自然的景観の組み合わせにより形成された景観が残されている。

また、折立地区ではオオタカが繁殖活動を行い、フクロウも確認されている。市内有数の大径木が多い広大な林がある。

白井市の生物多様性調査結果

専門調査員によって解明された、白井市の動物相をそれぞれのグループ別に、確認された種数を示します。
確認された動物種は 脊椎動物72種 昆虫類 2148種 クモ類146種。

その他の昆虫
双翅類 142種
カメムシ類 200種
カマキリ類 4種

両生類・爬虫類



確認種数

カエル類 6種
サンショウウオ類 1種
ヘビ類 6種
トカゲ類 3種
カメ類 3種



確認種 628種



確認種 チョウ類50種
ガ類393種



確認種数

在来種 7種
帰化種 3種



確認種 ハチ類 598種
アリ類 32種



確認種 69種



谷田地区 28種(サシバ営巣)
木地区 27種
折立地区 30種(オオカササギ)
神々廻地区 27種(オオカササギ)



確認種 合計15種
在来種 9種
外来種 4種
国内移入種 2種?



確認種 32種
白井市新記録が12種



確認種 146種
千葉県初記録が2種
(タテジヤリグモ、カキアノグモ)

専門調査員によって解明された、白井市の植物相をそれぞれのグループ別に、確認された種数を示します。



植物相調査

谷田地区 合計357種(草原環境236種、森林・湿地環境 256種)
希少種: 18種
木地区 合計339種(低地環境228種、斜面の樹林環境157種)
希少種15種
折立地区 合計209種、希少種10種
神々廻地区 合計239種、希少種16種
平塚小森城址 合計198種、希少種9種
富ヶ谷地区 合計338種、希少種13種



コケ類確認種

ゼン類 75種
タイ類 30種
ツノコケ類 3種

環境省レッドリストにおいて純絶滅危惧種に指定されている
コケ植物は、コウライイチョウコケなど3種が確認された。



地衣類確認種

69種

概ね千葉県の代表的な地衣類相であることが確認
された。千葉県の保護上重要な野生生物として選定
されている地衣類は確認されていない

(出典：白井市生物多様性調査報告書 (<https://www.mnc.toho-u.ac.jp/v-lab/bioltop/shiroi/01summary/001.htm>))

図 白井市の生物多様性



図 自然環境保全上の重要地点を選ぶ上での6つの視点

重要地域の特徴

谷田・武西:本地区は、北総鉄道や北千葉道路が通過する千葉ニュータウンの玄関口になっている。本地区が有する里山や田園、特に草原景観が卓越する風景は、北総地域を代表するものであり、自然と共生する近代都市としての千葉ニュータウンとして、その個性と品格を象徴する景観を形成している。谷津田生態系の頂点に立つ3種の猛禽類(サシバ、オオタカ、フクロウ)の営巣地となっていることから、本地区を1つのまとまった里山生態系として一帯的に捉える必要がある。

平塚・名内:手賀沼を望み、深く入り込んだ谷津に挟まれた舌状台地の上に展開する由緒ある集落と、それを取り囲む里山。折立:広大な平地林が特色。広い面積の樹林地に支えられて、林内に数箇所の湧水地点がある。オオタカの営巣地としても貴重な林である。

神々廻:白井市の運動公園の周囲にある樹林地と草原、湿地環境。多様な草花性植物・草花性昆虫の生育・生息地となっている。年2回の集会以、草原形態が維持されている。

二重川流域:二重川流域は、景観にモダンなミックスではないが、緩やかな川を挟んで船橋島民の森という大きな緑があり、休耕田・湿地・なし畑・大きな門のある民家・せせらめき山風景が見られる。そこに、オオタカ、サギ類、カワセミなどの多くの鳥たちの他、ザリガニ、カメ、アマガエル、ドジョウなどの生きものがいて、わくわくしながら散歩ができる。

白井の重要な自然環境とその保全

白井市の自然環境を生物多様性を守るという視点から評価して、その特徴を明らかにするため、重点的に調査する地域を6つの視点(下図)から検討しました。選ばれたのは、谷田、折立、神々廻、二重川流域の5箇所です。この5箇所を含めて、自然環境調査員養成講座の受講終了生らが、白井市内をくまなく調査し、未来に残したい自然環境として提案された地域と地点を次ページの表に示します。



未来に残したい、北総白井の自然環境

番号	地名・名称	見どころ	提案者
1	復・サギのコロニー	印旛沼流域で唯一のサギのコロニー	相馬
2	清戸・宗像神社	シイの大木、参道、ウメノキゴケ	坪井
3	復・文化センターの森	アカガシの森	長谷川
4	野口のモミ林	坂道とモミ	坪井・坂巻
5	河原子橋の南側森	広し樹林地	長谷川
6	神崎川下郷谷の湧水	湧水	岩本
7	神々廻・市民プール周辺の森	川岸から見た対岸の森	斎藤
8	神々廻・井天地下流域	森林景観	斎藤
9	神々廻の原	イナゴモドキの生息地・野草生育地	長谷川
10	大山口・金山滝し源流の林	サワグルミの生育地	坂巻
11	千名内・谷津	集落	森田
12	横・龍馬学校周辺の樹林と湿地	セウツノ木、ハンナツバ	寺園
13	中木戸・市民の森	サクラ・樹林地	米田
14	七次・清水口調整池	ハクチョウ渡来地	坂巻
15	七次・保寿樹林と谷津	湿地、樹林、草地	長谷川
16	野口・調整池下の谷津と林	谷津田	坂巻
17	平塚寺北の森	キンラン・コナラ林	相馬
18	神崎川の土手(七次橋〜464号線)土手・ハンノキ林		斎藤
19	延命寺境内		森田
20	滝田家	地衣類	岩本・森田
21	印西牧の野馬土手		坪井
22	平塚分校と平塚の森	校舎	坪井
23	富塚・鳥見神社		坪井
24	富塚・鳥見の森	鎮守の森	相馬
25	平塚・小森城址の森	大木の森林景観	森田・相馬
26	中木戸・調整池	コブシ、イチョウ、アカガシ	米田
27	神々廻・長楽寺、大日神社	ボダイジュ、社叢林	坂巻
28	神崎川のハンノキ・ヤナギ林	河畔林の景観	長谷川

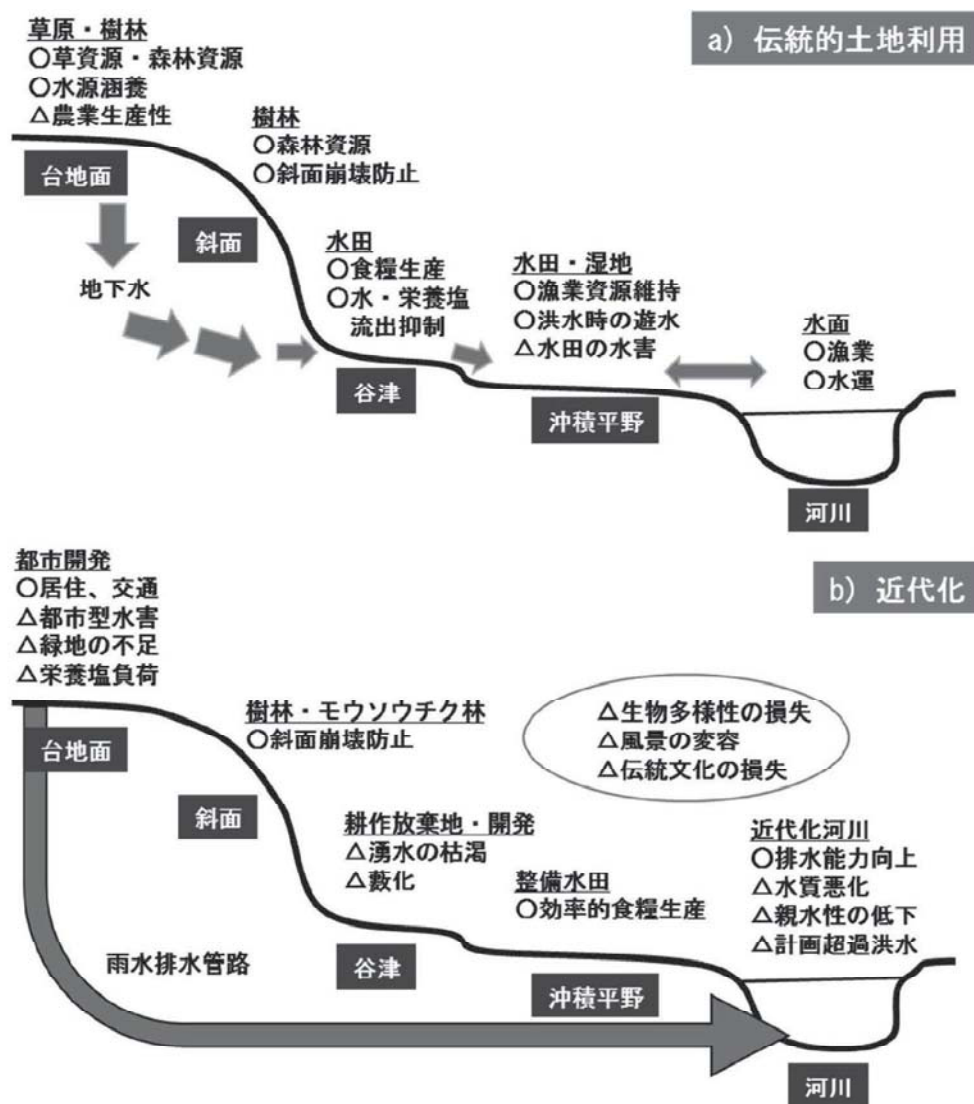


(出典: 白井市生物多様性調査報告書 (<https://www.mnc.toho-u.ac.jp/v-lab/bioltop/shiroi/01summary/001.htm>))

図 白井市の重要な自然環境

(3) 谷津・里山の生態系

谷津田とその周辺の樹林は、かつて里山として利用されてきた。里山は、一般的には農地や樹林地を中心として人と自然がかかわりながら維持されてきた景観を指す言葉であるが、樹林、草地、農地、湿地という水循環によって相互につながる場を、食料や燃料の供給だけでなく、地下水涵養、雨水流出抑制、水質浄化など、多様なサービスをもたらす場として活用していた伝統的な土地利用でもある。

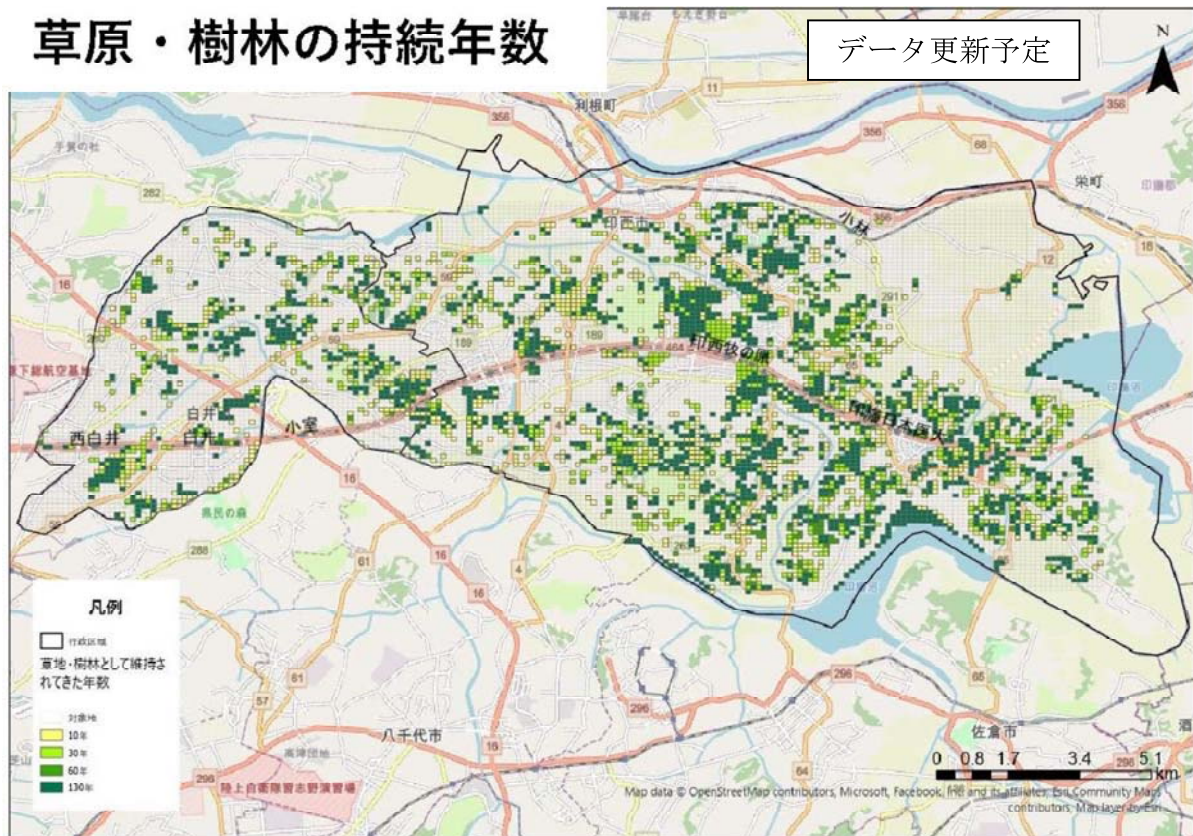


(出典：『「里山グリーンインフラ」による気候変動適応：印旛沼流域における谷津の耕作放棄田の多面的活用の可能性』(西廣淳ら、応用生態工学 22(2), 175-185, 2020))

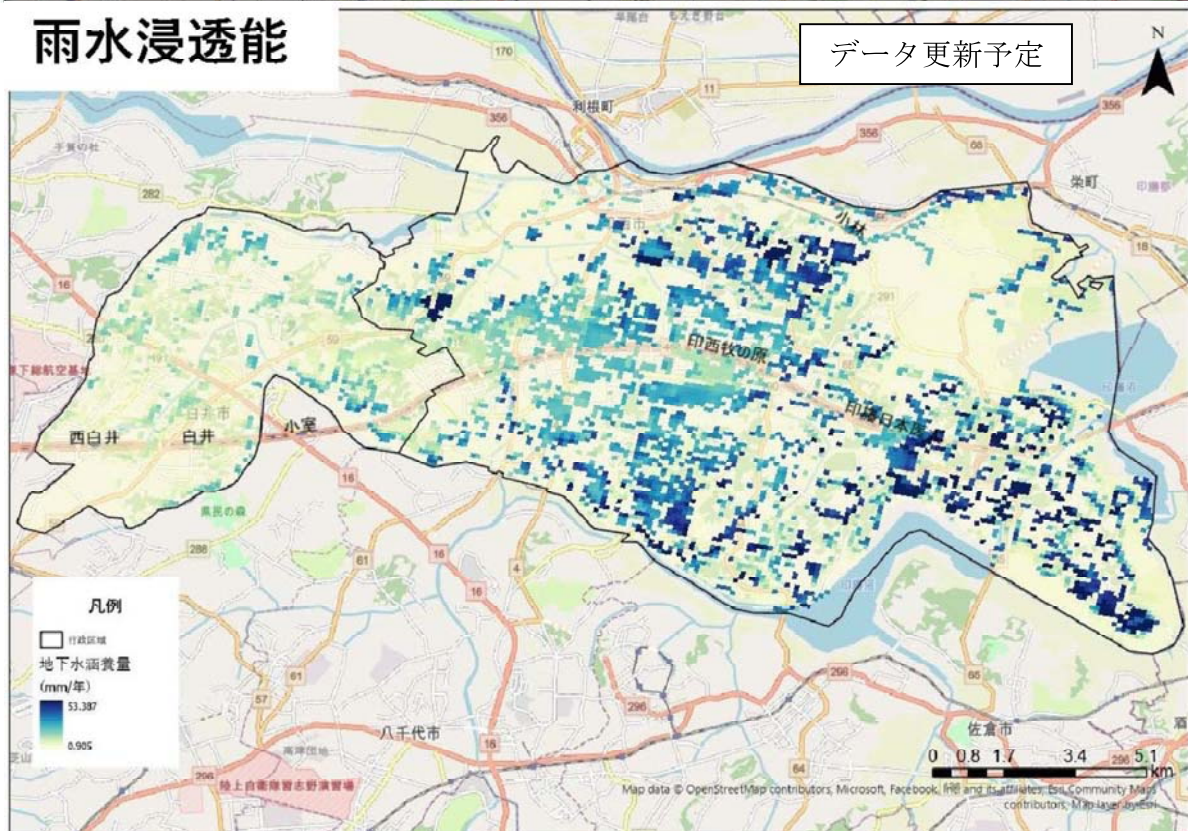
図 地形要素ごとの主な土地利用・土地被服と生態系サービスに関連する問題の特徴

白井市における特徴的な生態系の1つである草地は、地形や過去の土壌改良の有無等により樹林化しにくい立地があり、研究によりそのような場所は生物多様性が高いことがわかっている。そのような場所は雨水浸透能も高く、水源涵養の面からも重要な生態系と言える。

草原・樹林の持続年数



雨水浸透能



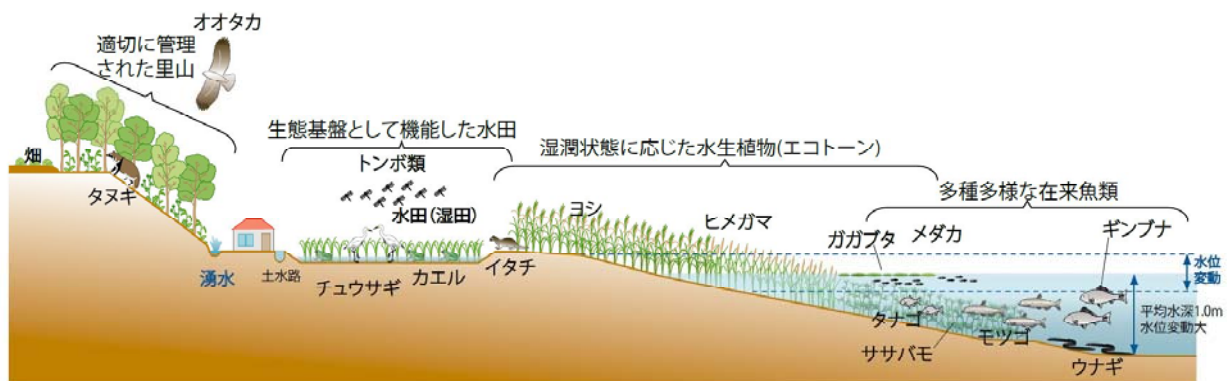
(出典：持続的な企業活動における「足元のグリーンインフラ」の活かし方講演会：「千葉県北部におけるネイチャーボジティブオプション」(2024年9月7日西廣淳セミナー資料))

図 草地・樹林の持続年数と雨水浸透能の関係

かつて、湧水が多く湧出する箇所周辺の周辺には多様な生物が生息・生育していたが、現在では、湧水枯渇や谷津の埋め立て等により、良好な生息場が失われている。また、外来種が多く侵入し、在来の生物に影響を与えている。

一方、流域の河川等では、治水対策や農地の土地改良等のため、河川及び水路の直線化にあわせ、コンクリート化により、産卵場所となる水辺植生の喪失や、堰や段差による移動経路の遮断によって、魚類等の生物が減少している。また、水質悪化や貯水池化による水深増加等の影響により、水草も減少している。

《過去：昭和 30 年代》



《現 在》

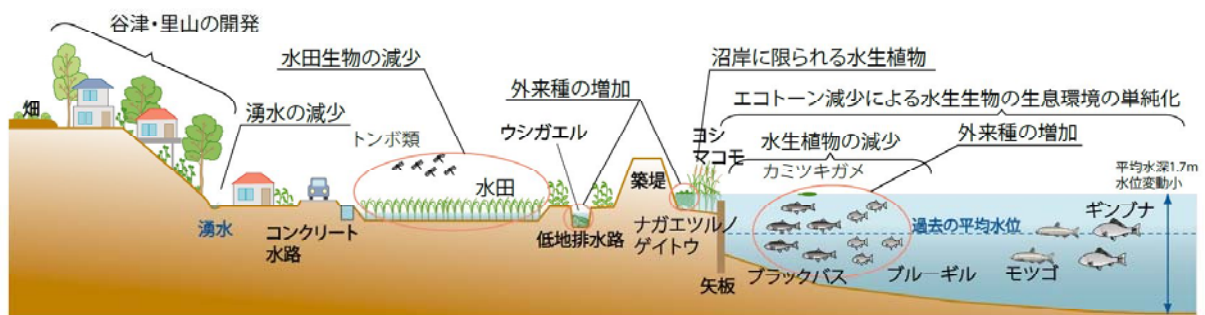


図 生態系の変化

(出典：『印旛沼・流域再生 恵みの沼をふたたび印旛沼流域水循環健全化計画』(千葉県、2010年3月))

1.4 土地利用

(1) 住宅地

北総線の白井駅や西白井駅周辺や桜台地区、西白井地区には、新住宅市街地開発事業や土地区画区整理事業によって整備された、低層の戸建住宅や中・高層の集合住宅が集積し、良好な住宅地の景観が見られる。

また、木下街道の沿道の一部には、住居と庭木等が一体となった歴史的な建築物が残っている。その他、富士地区には戦後の開発により形成された住宅地が見られる。



写真 桜台の住宅地



写真 堀込の団地



写真 木下街道



写真 富士の住宅地

(2) 商業地

本市の商業施設は、北総線駅周辺と街道や幹線道路沿道に立地している。

北総線の白井駅や西白井駅周辺には商業施設が集積している。しかし、商業施設の多くが老朽化しており、また一部では空き店舗も発生している。

国道 16 号や幹線道路沿道には、商業施設が点在しており、一部には目立つ形態や色彩の建築物が見られる。また、木下街道や風間街道をはじめとして、富塚、白井などの街道沿いには、個人店も点在している。



写真 西白井駅周辺の商業施設



写真 木下街道沿いの店舗

(3) 工業・産業地

白井工業団地には、工業施設のほか運輸・倉庫施設などの工業系施設が集積している。一部の施設では緑化等をしているが、目立つ形態や色彩の建築物や工作物もみられる。

また、国道 16 号と県道 189 号の交差部にも、工業施設のほか運輸・倉庫施設などの工業系施設が集積している。

そのほか、街道沿道の一部には、農地や樹林地に介在して、資材や廃棄物の集積場、作業場などが散在している。



写真 白井工業団地



写真 白井工業団地



写真 国道 16 号と県道 189 号の交差部周辺の工業
系施設

(4) 交通施設

国道 464 号と北総線は市の南部を東西に並走し、本市の骨格を形成している。特に、国道 464 号は鉄道用地と一体となり、その幅員と長さにおいて日本最大級の広域骨格軸を構成している。

また、北総線の白井駅と西白井駅は、千葉ニュータウン入居開始と同時期に開通しており、市の交通の要衝となっている。

そのほか国道 16 号沿道や一般県道千葉ニュータウン北環状線は南北に伸びており、その沿道は多くの市民の目に触れるところである。

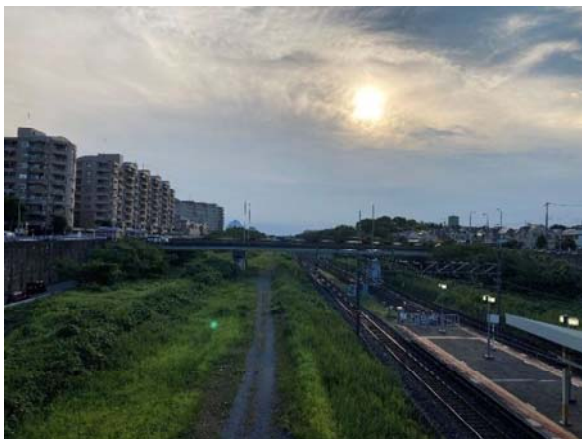


写真 国道 464 号と北総線



写真 西白井駅

(5) 農地

下手賀沼沿いや神崎川沿いの低地には田畑が多くある。また、田畑の周辺には、平塚地区や法目地区など、民家と屋敷林、庭木がみられる。

低地と台地の境目となる、平塚地区や谷田清戸地区には大小の河川の浸食作用によって枝状に形成された台地特有の谷津が広がっている。

台地の上には、梨畑が存在し、一部は住宅地に隣接した形で残っている。



写真 神崎川沿いの水田



写真 法目地区

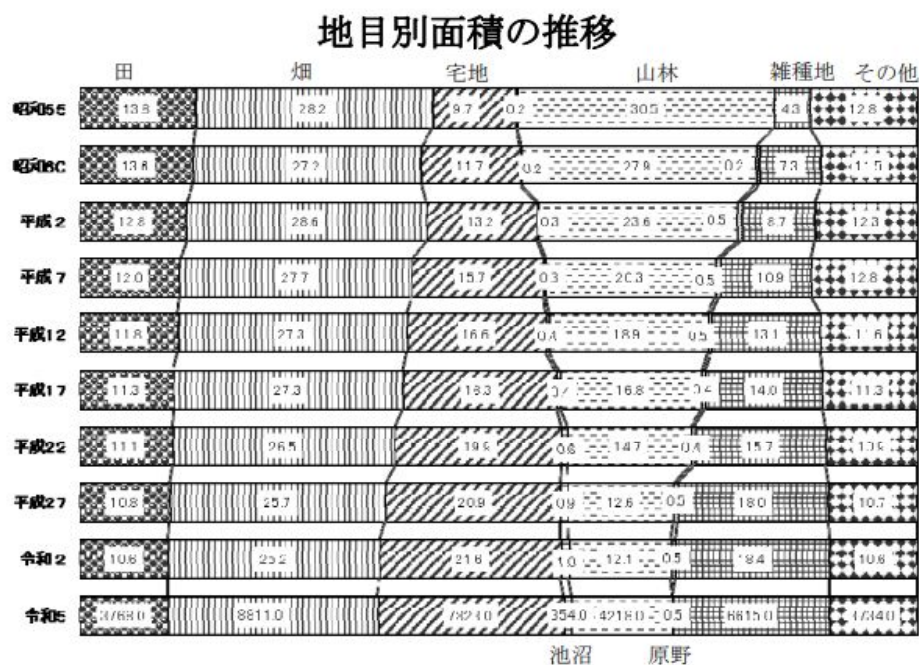


写真 谷津田



写真 梨畑

地目別面積の推移をみると、農地（田・畑・樹園地）の面積は減少しており、令和2年における農地の総面積は昭和63年に比べ半分程度となっている。



(出典：令和5年度版統計しろい)

図 地目別面積の推移

年	総面積	田	畑	単位面積:a (各年2月1日現在)	
				樹園地	
				果樹園	その他の樹園地
昭和63	102,930	36,143	30,075	36,453	259
平成元	102,151	35,827	29,575	36,498	251
平成2	102,497	35,652	29,214	37,267	364
平成3	103,243	36,562	29,158	37,208	315
平成4	102,814	36,362	28,992	37,053	407
平成5	102,272	36,118	28,941	36,953	260
平成6	102,019	36,084	29,061	36,614	260
平成7	99,545	33,774	27,358	38,139	274
平成8	96,824	32,766	25,591	38,072	395
平成9	79,871	25,444	19,176	35,089	162
平成10	92,842	31,437	24,047	37,076	282
平成11	76,470	24,536	17,810	33,881	243
平成12	86,866	26,917	22,808	37,021	120
平成17	79,796	24,699	20,223	...	34,874
平成22	76,470	24,337	20,694	...	31,439
平成27	70,086	20,344	19,900	...	29,842
令和2	52,506	15,269	11,181	...	26,056

注:1 平成9、11年は抽出調査。

2 平成12年より農業基本調査が廃止されました。

3 平成17年は、自給的農家の数値は含まれません。

4 平成17年以降「その他の樹園地」の数値は、果樹園を含む樹園地の計です。

資料 企画政策課(農業基本調査、農林業センサス)

(出典：令和5年度版統計しろい)

図 経営耕地種類別面積の推移

(6) レクリエーション施設

市内の公園のうち、白井総合公園や運動公園は比較的規模が大きく、休日には多くの人々が利用している。加えて、土地開発事業等で整備された公園が多数あり、豊かな生活環境を形成している。また、市民の森や特別保全緑地があり、樹木に囲まれた空間を保全している。

その他、市内には一体的な土地開発事業によって整備された、駅や公園を起点とした緑道が複数存在する。

そのほか、船橋カントリー倶楽部や日本中央競馬会競馬学校など、民地でありながら豊かなみどりの空間を有している場所がある。



写真 白井総合公園



写真 神々廻市民の森



写真 桜台の緑道



写真 船橋カントリー倶楽部

2. 景観・みどりの特性を把握するためのゾーニング

景観・みどりの類似した特徴をもつ空間の範囲を「ゾーン」とし、ゾーンごとに景観・みどりの特性や方針を整理する。本章では「白井市の景観・みどりの特性を把握するための視点」もふまえ設定したゾーンの概要と、ゾーンごとの景観・みどりの特性を整理する。

2.1 白井市における景観・みどりの要素とゾーニング

(1) 景観・みどりの特性に応じたゾーン分類

白井市では、住宅地・商業地・工業地等の都市的な要素と、樹林地・谷津田・川沿いの水辺等の里地里山の生態系が育まれている自然的な要素が共存し、調和のとれた景観・みどりが育まれている。また、白井市の歴史や現在の市の産業として発達してきた農業や、市街化区域外の低密度の住宅地は、都市と自然の間接的な要素として白井市の景観・みどりをかたちづくっている。

以上をふまえ、白井市の景観・みどりを構成する要素として、住宅地・商業地・工業地など人々の暮らしや活動が中心となる「都市的要素」、地形や自然条件から形成された生態系が残されており、里地里山の豊かな自然環境が育まれている「自然的要素」があり、その間に農地や低密度住宅地など人々の活動と自然が共生する要素がある。

そして、それぞれの要素が卓越する範囲を「ゾーン」として、市域を「都市のゾーン」「農と住まいのゾーン」「里地里山のゾーン」3つに分類する。

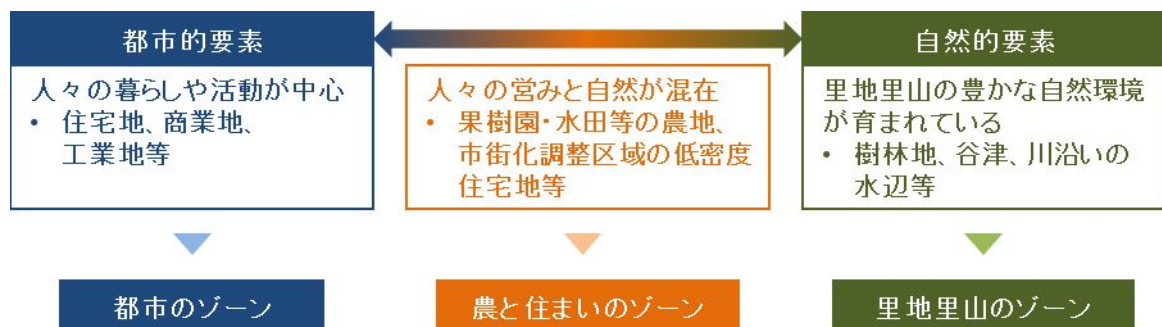


図 白井市における景観・みどりの構成要素とゾーニングの考え方

(2) 景観・みどりの特性に応じたエリア・ブロック分類

ゾーンの中で、特に土地利用の特性に着目し大きなまとまった特性を有する範囲を「エリア」として分類する。

さらに、エリアの中で地形、歴史、生態系、土地利用に着目しまとまった特性を有する範囲を「ブロック」として分類する。

また、ブロックをまたぎ軸的な景観・みどりの特徴的な特性を有する範囲については、ブロックとは別に「景観とみどりの骨格軸」を設定する。

本計画では、市全体を対象とする景観・みどりの方針を示すとともに、ブロックや景観とみどりの骨格軸の特性に応じたより細やかな方針を示す。

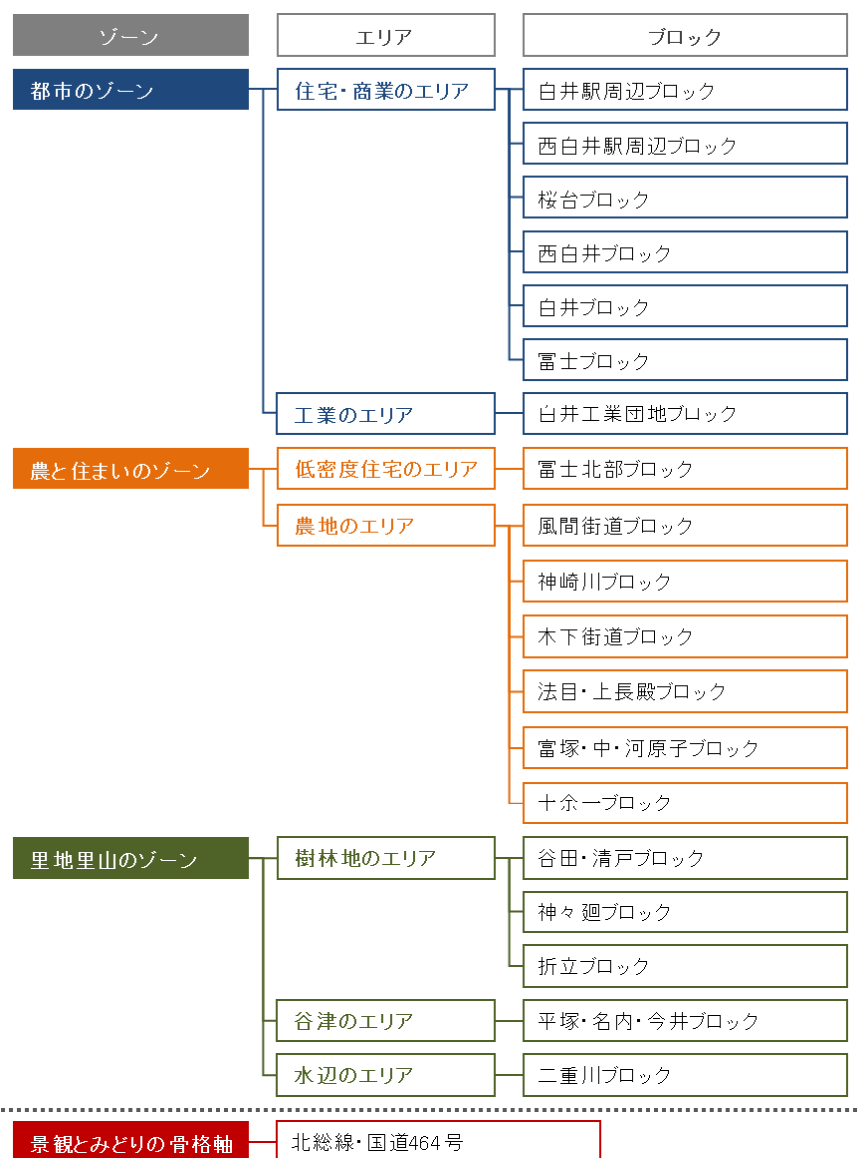


図 白井市におけるゾーン・エリア・ブロック

(3) 各ゾーン・エリアの設定の考え方

1) 都市のゾーン

住宅や店舗、工場といった人の手による人工的建築物は、その土地に住む人、そこで生業を立てる事業者の特徴や個性を表現している。ニュータウン区域を中心とした住宅市街地や駅を中心とした商業地区、国道 16 号沿いに計画的に形成された工業団地など、人々の暮らしや活動が中心となっているゾーンを「都市のゾーン」とする。

① 住宅・商業のエリア

ニュータウン事業に伴い計画的に造成された住宅や、駅周辺や沿道の商業施設等、居住・商業機能が集積し都市的な暮らしが営まれているエリアを「住宅・商業のエリア」とする。

【住宅・商業のエリア内のブロックとブロックの範囲】

ブロック名	範囲
白井駅周辺ブロック	市街化区域（白井駅周辺の第一種低層住居専用地域、第一種中高層住居専用地域、第二種中高層住居専用地域、第一種住居地域、第二種住居地域、近隣商業地域、準工業地域）
西白井駅周辺ブロック	市街化区域（西白井駅周辺の第一種低層住居専用地域、第一種中高層住居専用地域、第一種住居地域、第二種住居地域、近隣商業地域）
桜台ブロック	市街化区域（白井市桜台）
西白井ブロック	市街化区域（白井市西白井）
白井ブロック	市街化区域（白井市白井・白井市根・白井市復にまたがる第一種低層住居専用地域、第一種住居地域、準住居地域）
富士ブロック	市街化区域（白井市富士）

② 工業のエリア

市域で工場や事業所が立地するエリアを「工業のエリア」とする。

【工業のエリア内のブロックとブロックの範囲】

ブロック名	範囲
白井工業団地ブロック	市街化区域（白井工業団地周辺の工業地域、工業専用地域）

2) 農と住まいのゾーン

白井市には、梨畑などの果樹園や河川沿いの田んぼ等の農地が多くある。また、特に西白井駅の南部や北部周辺の市街化調整区域では、農地や緑地と共存する低密度な住宅地がみられる。都市的な要素と自然的な要素が混在し、身近な自然的要素に関わりながら人々が暮らしを営むゾーンを「農と住まいのゾーン」とする。

① 低密度住宅のエリア

富士地区の北部は市街化調整区域となっているが、他の地区に比べ住宅地が多く立地しており、都市的な要素と農的な要素、自然的な要素が混在している。市街化調整区域内にあり、農地や緑地が混在する低密度な住宅地のエリアを「低密度住宅のエリア」とする。

【低密度住宅のエリア内のブロックとブロックの範囲】

ブロック名	範囲
富士北部ブロック	市街化調整区域（低密度住宅地区）

② 農地のエリア

白井市における農業は、地形・地質的な特徴をふまえ発展し、現在でもその営みは続いている。川沿いの田園地帯、梨畑などの台地上の畑・農園、谷津に形成された谷津田等、自然を活かしながら人々の暮らしを育む農地のエリアを「農地のエリア」とする。

【農地のエリア内のブロックとブロックの範囲】

ブロック名	範囲
風間街道ブロック	市街化調整区域（白井市根の範囲のうち風間街道周辺にあたるもの）
神崎川ブロック	市街化調整区域（白井市根の範囲のうち神崎川流域かつ北総線以北にあたるもの、白井市木）
木下街道ブロック	市街化調整区域（白井市根の範囲のうち神崎川流域かつ北総線以南にあたるもの）
法目・上長殿ブロック	市街化調整区域（白井市復の北総線以北の範囲、白井市白井の木下街道以南の範囲）
富塚・中・河原子ブロック	市街化調整区域（白井市富塚、白井市中の白井工業団地ブロック以南の範囲、白井市河原子）
十余一ブロック	市街化調整区域（白井市十余一）

3) 里地里山のゾーン

市域には人間の手が介在しながらも樹林地や草地・湿地があり、豊かな自然環境が育まれている。まとまった樹林地・草地・湿地がある箇所を「里地里山のゾーン」とする。

① 樹林地のエリア

下総台地上にはクヌギ・コナラ等の樹林や草地がみられる。台地上の樹林・草地が卓越するエリアを「樹林地エリア」とする。

【樹林地のエリア内のブロックとブロックの範囲】

ブロック名	範囲
谷田・清戸ブロック	市街化調整区域（白井市谷田、白井市清戸）
神々廻ブロック	市街化調整区域（白井市神々廻）
折立ブロック	市街化調整区域（白井市折立）

② 谷津のエリア

平塚地区や名内地区を中心に、谷津と呼ばれる小さな谷が複数存在する。谷津が発達し、谷津の豊かな生態系が育まれているエリアを「谷津のエリア」とする。

【谷津のエリア内のブロックとブロックの範囲】

ブロック名	範囲
平塚・名内・今井ブロック	市街化調整区域（白井市平塚、白井市名内、白井市中の白井工業団地ブロック以北の範囲、白井市今井）

③ 水辺のエリア

二重川の沿川は田畑などの農業用地になっている箇所もあるが、一部ヨシクラスが残る湿地帯がある。低地部河川沿いの湿地帯で、水辺の豊かな生態系が育まれているエリアを「水辺のエリア」とする。

【水辺のエリア内のブロックとブロックの範囲】

ブロック名	範囲
二重川ブロック	市街化調整区域（白井市復の北総線以南の範囲）

4) 景観とみどりの骨格軸

北総線と国道 464 号は、線路や道路に沿って桜並木があるほか、跨線橋からは富士山や夕日が眺められるビュースポットとなっており、白井市における重要な景観・みどりの軸線となっていることから、北総線・国道 464 号を「景観とみどりの骨格軸」とする。

2.2 各ブロックにおける景観・みどりの資源

(1) 都市のゾーン

1) 住宅・商業のエリア

① 白井駅周辺ブロック

■地形

比較的平坦な台地上に位置している。

■歴史

高度経済成長期にニュータウン開発が進められ、白井駅周辺を中心に住宅地が整備された。

■生態系

自然植生はほとんど見られないが、南山公園内の池のほとりには水辺の植生があり、池の上の富ヶ沢川防災調整池はシラサギなどの水鳥が飛来している。

■土地利用

白井駅前には中高層のマンション・団地が立ち並び、駅を離れるにつれて戸建ての住宅地が広がる。また、駅南部には桜やケヤキなどの並木道となっている緑道があり、四季折々で異なる風景を醸し出している。

白井駅北側には家電量販店やホームセンター等の大型の商業施設が立地する。一方で駅南側はスーパーマーケットや飲食店・商店が連なり、生活に密接した商業施設が立地している。

ブロック内には南山公園や白井総合公園、白井木戸公園などの公園があり、周辺住民の憩いの場となっている。

ブロック北部は白井市役所のほか、白井市文化センターとして白井市文化会館・白井市立図書館などの文化施設があり、白井市の行政・文化の中心地となっている。

北総線をまたぐ跨線橋は国道 464 号沿いの桜並木や富士山、夕日を眺められるスポットになっている。また、白井木戸公園と堀込地区を繋ぐ白井木戸歩道橋はニュータウンを象徴するような美しい歩道橋であり、歩道橋上からは夕日や富士山が眺められる。

白井総合公園東側に物流施設や工場、給食センター等が立地しており、ブロック北部は工業的な土地利用となっている。



写真 中層の団地と戸建て住宅（堀込・池の上）



写真 緑道の桜並木（堀込）



写真 白井総合公園



写真 南山公園のシラサギ

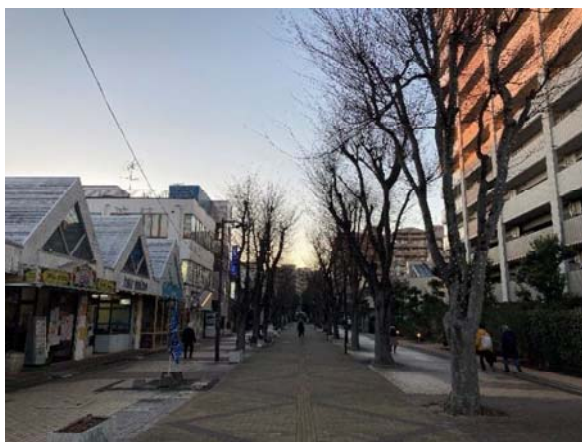


写真 白井駅前の商店街



写真 跨線橋から見る桜と北総線

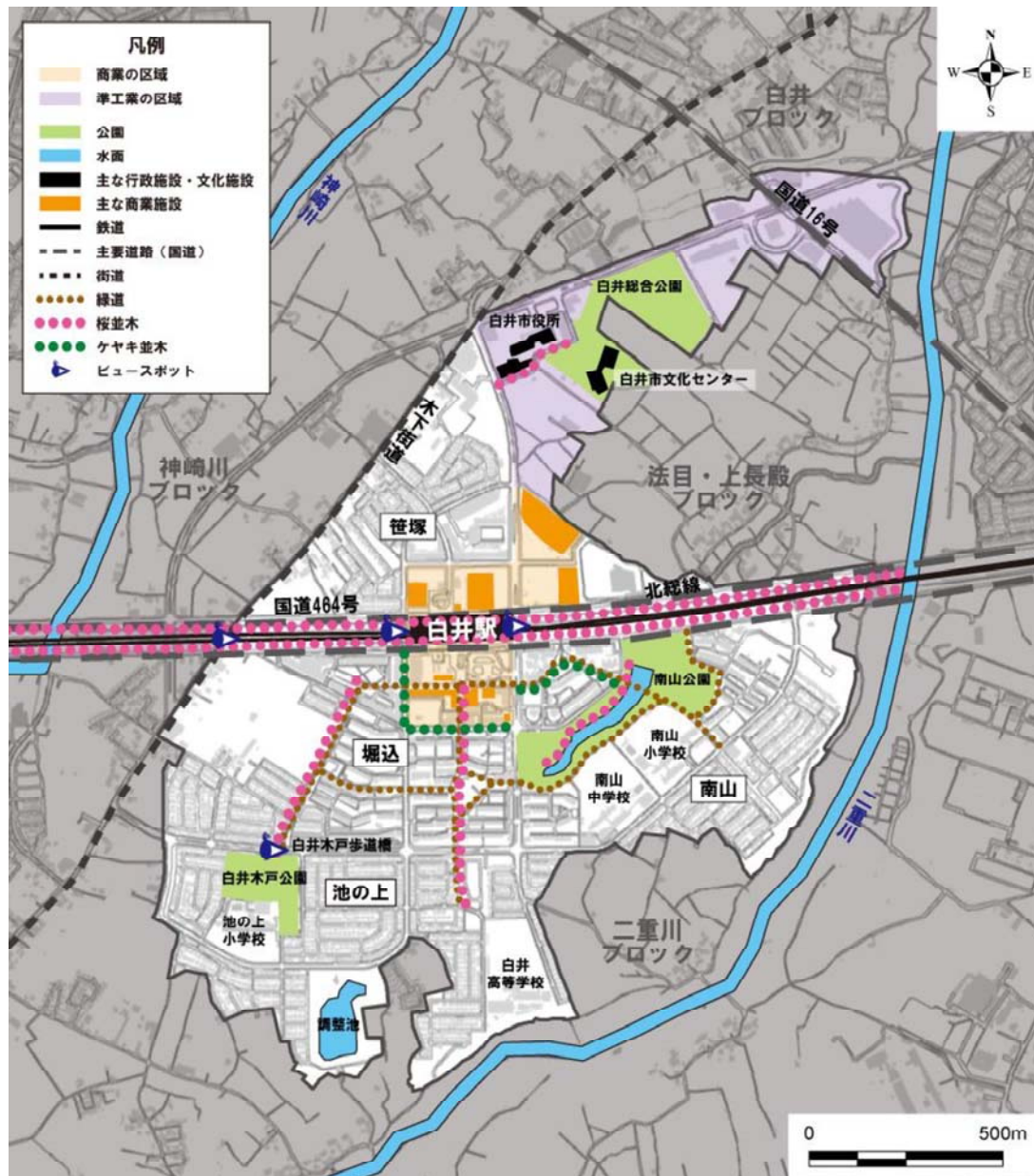


図 白井駅周辺ブロックの景観・みどりの要素

② 西白井駅周辺ブロック

■地形

比較的平坦な台地上に位置しているが、神崎川沿い周辺は低地となり、周辺は緩やかな傾斜がみられる。

■歴史

高度経済成長期にニュータウン開発が進められ、清水口・大山口地区から入居が始まった。西白井駅周辺は千葉ニュータウンにおける最初の入居地区である。

■生態系

自然植生はほとんど見られないが、七次川（清水口）調整池はオオハクチョウなどの鳥類の飛来地となっており、住宅地に近接した野鳥の観察ポイントとなっている。

■土地利用

西白井駅前には中高層のマンション・団地が立ち並び、駅を離れるにつれて戸建ての住宅地が広がる。また、駅北部には、西白井駅前～清水口～七次台と続く長距離の緑道が整備されており、緑があふれ安心して歩ける環境となっている。

西白井駅は北側に商業施設が多く立地している。スーパー・ドラッグストア等の生活必需品が購入できる店舗のほか、飲食店や商店等が入る西白井駅前サンロードが立地する。

ブロック内には中木戸公園や七次第一・第二公園などの公園があり、住宅地に近接してみどりが広がる。

県道 191 号沿いの桜並木や七次第一公園の桜など、ブロック内には桜の見どころが多く、周辺住民に親しまれている。

北総線をまたぐ跨線橋は国道 464 号沿いの桜並木や富士山、夕日を眺められるスポットになっている。



写真 西白井駅前のマンション



写真 西白井駅前の商業施設



写真 緑道（七次台周辺）



写真 七次第一公園



写真 七次川（清水口）調整池のオオハクチョウ



写真 国道 464 号線の桜

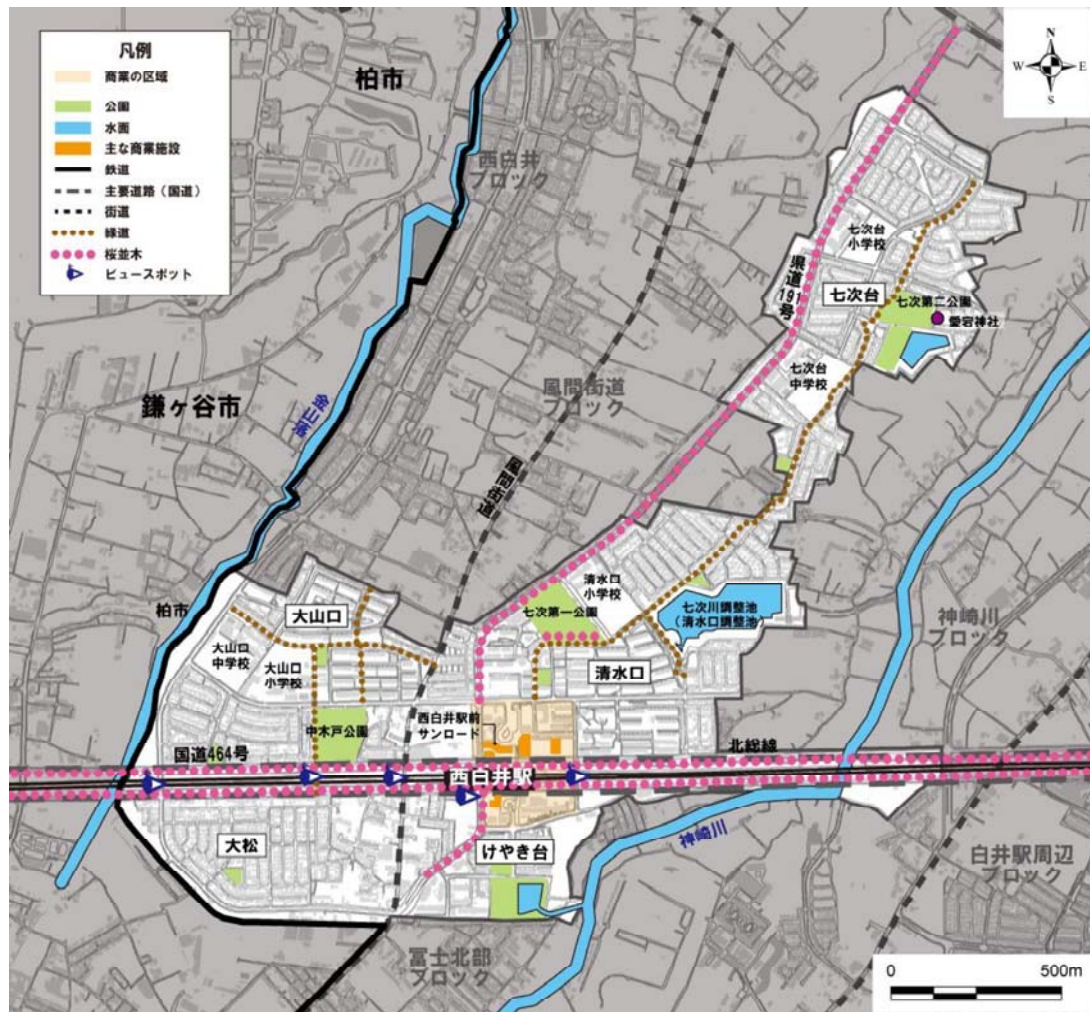


図 西白井駅周辺ブロックの景観・みどりの要素

③ 桜台ブロック

■地形

比較的平坦な台地上に位置しているが、十余一公園内は窪地になっており、周辺部で緩やかな地形の変化がみられる。

■歴史

バブル期にニュータウン開発が進められた。

■生態系

自然植生はほとんど見られないが、十余一公園にはまとまった面積の芝生広場とそれに隣接する池や樹林があり、身近に自然に親しめる環境がある。

■土地利用

千葉ニュータウン中央駅に近いブロック南東部には中高層の集合住宅が立ち並び、ブロック北西部は戸建ての住宅地が広がる。また、ブロック内外を結ぶ緑道が整備されており、緑を感じながら安心して歩くことができる環境が整備されている。

ブロック南部の国道 464 号沿線に、大型のスーパーマーケットや衣料品店・インテリア用品店等が立地している。

一本桜公園前からブロック内を周る道路には桜並木があり、春の桜並木の風景は地域住民に親しまれている。

ブロックの中心部には十余一公園があり、みどり豊かな環境が形成されている。



写真 中高層の集合住宅



写真 戸建て住宅



写真 桜並木



写真 十倉一公園



図 桜台ブロックの景観・みどりの要素

④ 西白井ブロック

■地形

金山落に近く、ブロック西部～中央部は低地部に位置する。ブロック東部は台地となっており、坂や階段があり地形の変化を感じられる。特に矢ノ橋台公園は眺めの良い高台となっている。

■歴史

白井・沼南土地区画整理事業により 2002 年に造成された比較的新しい住宅地（西白井ベリーフィールド）である。

■生態系

密集した住宅地となっており、自然植生はほとんど見られない。

■土地利用

地区計画の運用により整然とした戸建ての住宅地が広がる。

ブロック内には富塚公園や矢ノ橋台公園等の中・小規模の公園が複数あり、生活に密接したみどりが点在する。矢ノ橋台公園は高台に位置しており、夕日を眺められるビュースポットとなっている。



写真 戸建て住宅・緑道



写真 矢ノ橋台公園



図 西白井ブロックの景観・みどりの要素

⑤ 白井ブロック

■地形

比較的平坦な台地上に位置しているが、神崎川や二重川周辺は低地となっており、川に近づくにつれ緩やかに標高が下がっていく。

■歴史

江戸時代に、港町銚子から利根川を経て江戸へ向かう鹿嶋道（現在の木下街道）の宿場町「白井宿」として発展した。

■生態系

わずかに果樹園（梨畑）や畑地、社寺林が点在しているが、自然植生はほとんど見られない。

■土地利用

木下街道沿いを中心に低層の住宅が立ち並び、比較的古い民家が多い。

「白井」の名の由来の一つと言われるみたらしの池や秋本寺、鳥見神社などの歴史・文化資源がブロック内に点在する。

木下街道沿いには市内外からも人が訪れる白井そろばん博物館が立地しているほか、白井児童館や白井コミュニティセンター等、周辺住民が集まり利用する施設が立地している。

国道 16 号沿いには大きな看板のある商業施設が立地している。



写真 木下街道沿いの古い民家



写真 みたらしの池

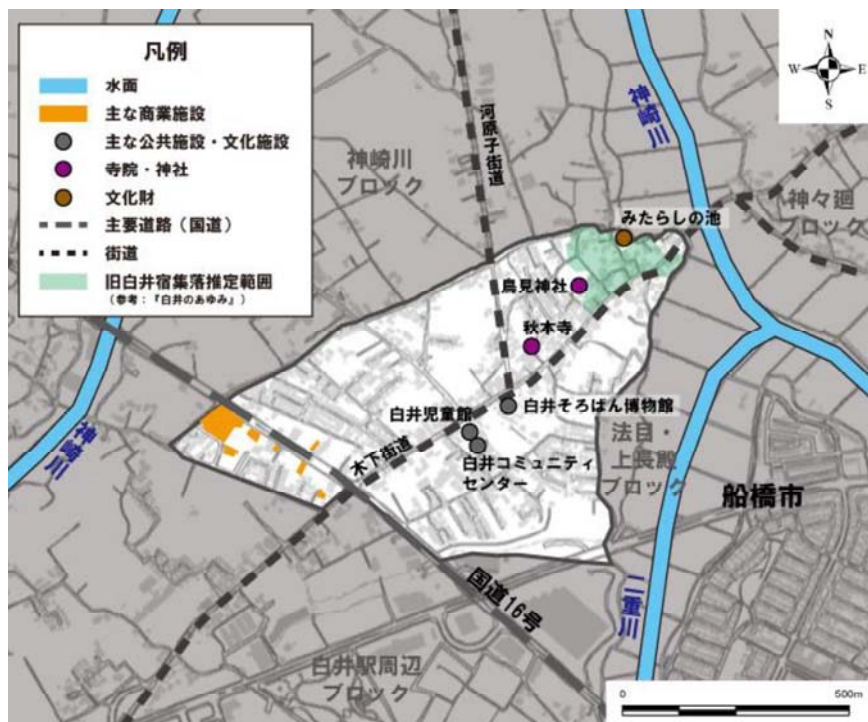


図 白井ブロックの景観・みどりの要素

⑥ 富士ブロック

■地形

比較的平坦な台地上に位置している。

■歴史

もともと山林が広がっていたが、農地改革により戦後に開拓が行われ、農地が造成された。その後、高度経済成長に伴い宅地開発が行われ、現在は低層の住宅地が形成されている。

ブロック内には江戸時代に形成された中野牧の境界部が位置し、現在中野牧野馬除土手として遺構が残っている。

■生態系

密集した住宅地となっており、自然植生はほとんど見られない。

■土地利用

ブロック全体に低層の住宅が立ち並ぶ。

富士公園は 2024 年にオープンした比較的新しい公園であり、近隣住民が憩い・遊ぶことができる空間が整備されている。

風間街道や木下街道沿いには商業施設や飲食店が立ち並んでおり、地域住民にとって生活に必要なものを購入できるだけでなく、近所の人が集まれる場にもなっている。



写真 低層の住宅地



写真 富士公園



写真 木下街道沿いの商業施設



図 富士ブロックの景観・みどりの要素

2) 工業のエリア

① 白井工業団地ブロック

■地形

台地上に位置しており、平坦な地形となっている。

■歴史

もともと田畑が広がっていたが、高度経済成長期の 1967（昭和 42）年～1974（昭和 49）年にかけて白井工業団地が整備された。

■生態系

面的に連続した工場地帯となっており、自然植生はほとんど見られない。

■土地利用

白井工業団地は約 300 社の事業所が集積し、千葉県の内陸工業団地で最大規模となっている。製造業・鉄鋼業・リサイクル業等の多様な業種の工場・事業所が立地し、高い技術力や特色を持つ企業も立地している。



写真 物流施設



写真 クレーン

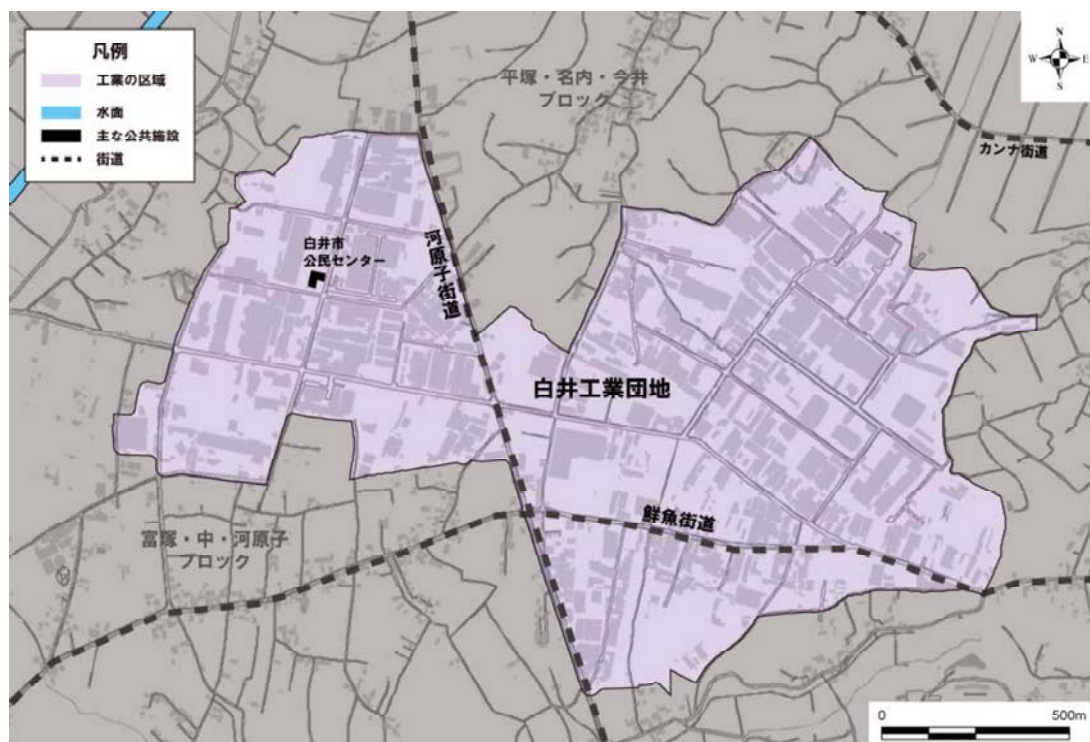


図 白井工業団地ブロックの景観・みどりの要素

(2) 農と住まいのゾーン

1) 低密度住宅のエリア

① 富士北部ブロック

■地形

台地上に位置している。神崎川沿いは周囲に比べ標高が低くなっており、川の近くでは緩やかな坂がみられる。神崎川はブロック内にある八幡神社周辺が源流となっている。

■歴史

もともと山林が広がっていたが、農地改革により戦後に開拓が行われ、農地が造成された。2000年以降になり徐々に宅地が造成され、現在は宅地と農地が混在する低密度な住宅地が形成されている。

■生態系

自然植生はほとんど見られないが、果樹園（梨畑）や畑雑草群落（畑地）が点在している。

■土地利用

ブロック全体で低層の住宅地と農地が混在している。

風間街道沿いには飲食店を中心に商業施設が並んでおり、地域住民にも利用されている。

富士南園広場は野球等子どもが体を動かすことのできる場になっているほか、5月に開催されるこいのぼりまつりの会場でもあり、地域住民に愛されている公園である。

神崎川の源流である八幡神社は夏祭りや節分などの祭りの会場であり、富士地区の中心的な場所となっている。



写真 低層の住宅地



写真 富士南園広場のこいのぼりまつり

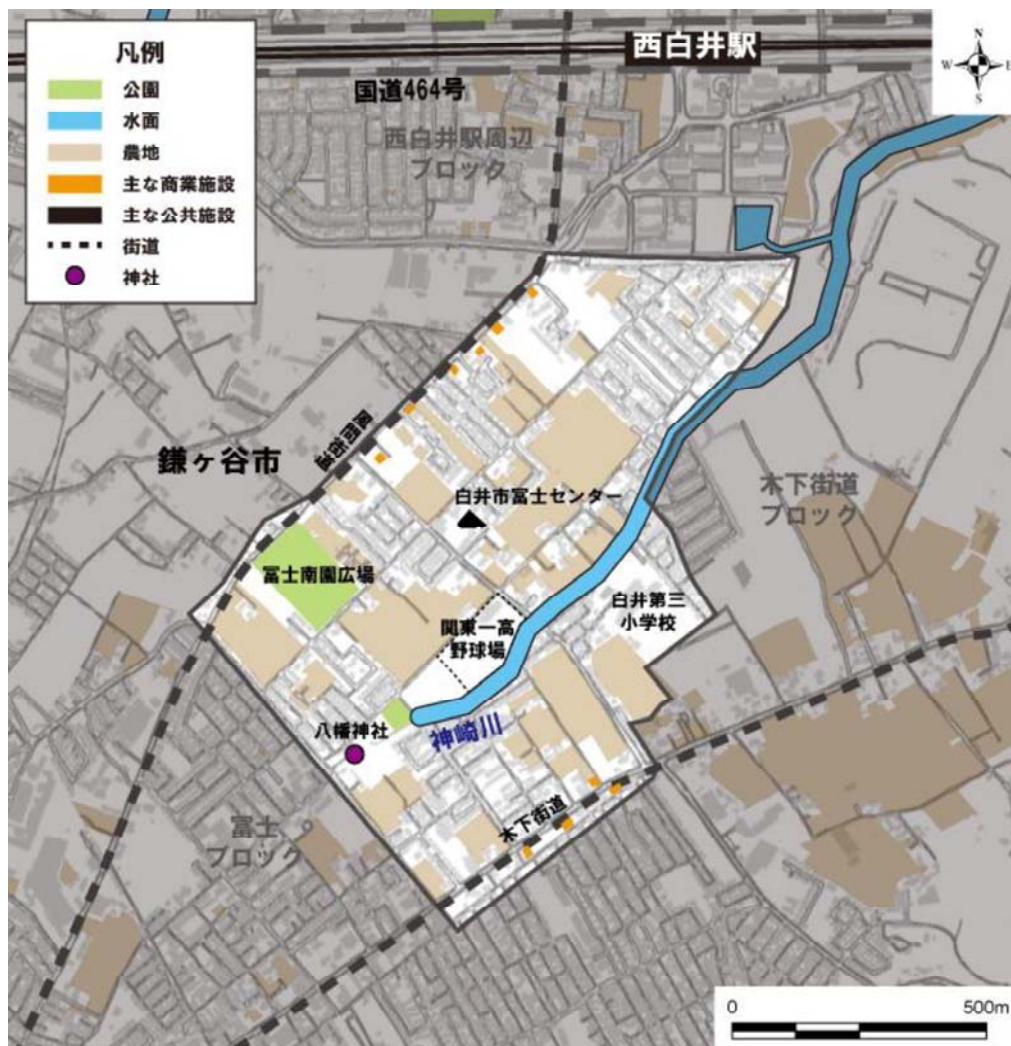


図 富士北部ブロックの景観・みどりの要素

2) 農地のエリア

① 風間街道ブロック

■地形

台地上に位置している。ところどころに起伏がみられる。

■歴史

かつての「中木戸新田」に位置するブロックであり、中木戸新田は江戸時代に開発が行われてきた村である。

ニュータウン開発以前から、特にブロック南部の風間街道沿いに集落が形成されていた。高度経済成長期を経ても農地が中心の空間が広がっていたが、2000年代に入り、徐々に住宅が増え始めた。

■生態系

果樹園（梨畑）の中に畑雑草群落（畑地）や市街地（住宅地）が点在しており、まとまった面積の竹林がある。ブロックの東側には、ヨシク拉斯の草本群落（湿地）が分布している。また、ブロック内には中木戸市民の森がある。

■土地利用

エリア全体として梨畑を中心とした畑が広がっている。

風間街道沿いは住宅が多く立地し、街道沿いにある諏訪神社は地域の人々の祈りの場となっている。西白井ベリーフィールドに隣接する一部の箇所では、比較的新しい戸建ての住宅地となっている。

ブロック東部には中木戸市民の森があり、市民が自由に立ち入ることができる樹林地がある。



写真 風間街道



写真 西白井ベリーフィールドに隣接する住宅地

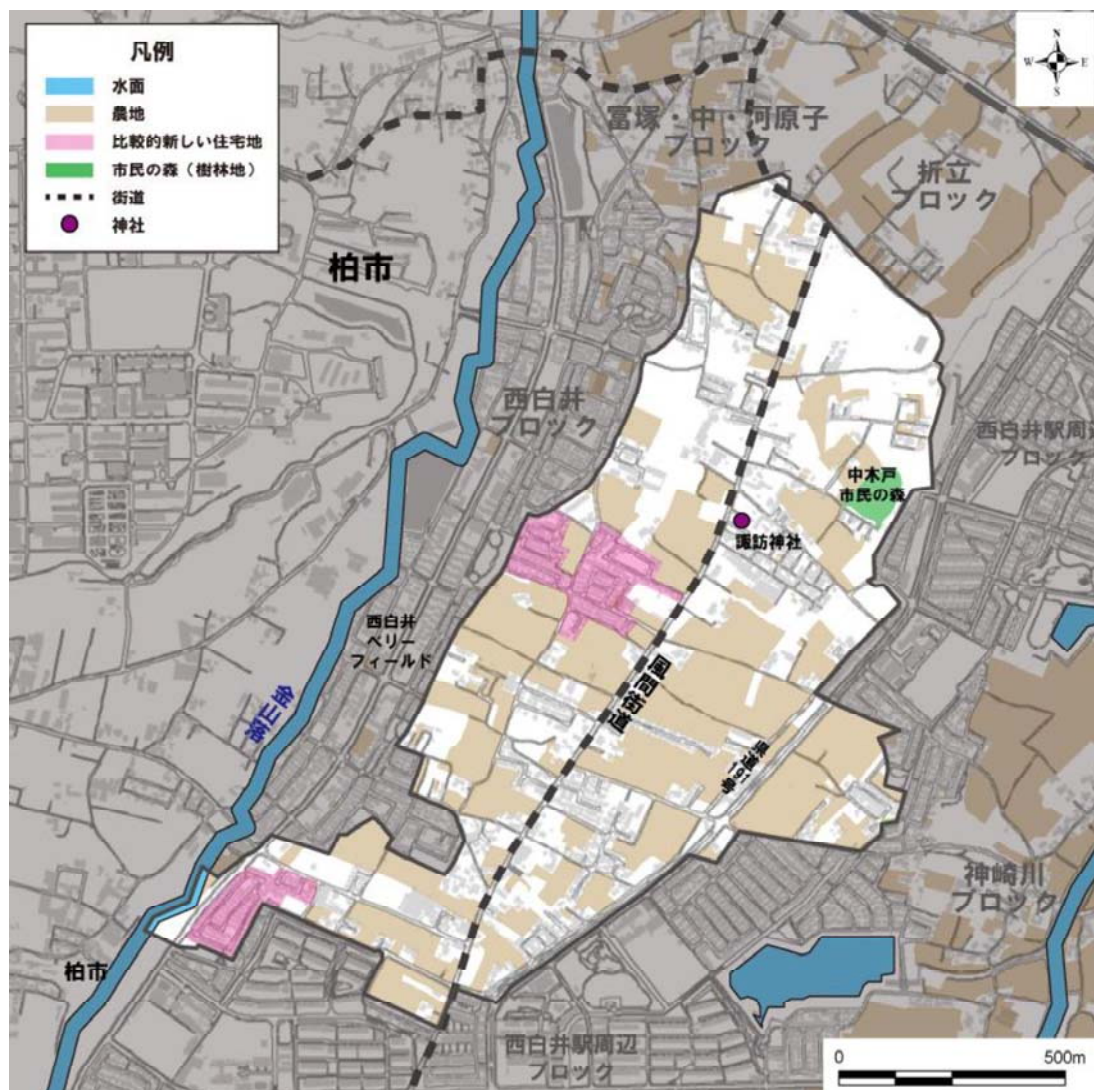


図 風間街道ブロックの景観・みどりの要素

② 神崎川ブロック

■地形

神崎川に近いところは低地となっており、川から離れたところは台地となっている。

■歴史

かつての「白井木戸新田」「七次村」「野口村」「所沢村」の一部に位置する。

神崎川沿いの低地部に隣接する台地上に集落が形成され、現在でもほぼ同様の位置に住宅が立地している。

■生態系

神崎川の上流側は、河川に沿ってヨシクラスが分布している。河川沿いには畑雑草群落（畑地）や水田雑草群落（水田）が分布しており、河川から離れると果樹園（梨畑）が多い。また、スギ・ヒノキ・サワラ植林が点在しており、わずかにケヤキ・シラカシ群落の樹林地が存在している。ブロック内には小規模な谷津が点在しており、所沢市民の森がある。

白井市学校給食センターの西側には、サギのコロニーが確認されている。

■土地利用

神崎川沿いの低地部には水田、国道 16 号沿いの台地部には梨畑が主に広がる。

ブロック内には長楽寺、大日神社、鷲神社などの寺社が立地しており、地域の人々の信仰の場となっている。大日神社では神楽が行われており、古来受け継がれてきた白井の民俗が継承されている。

ブロック北西部には所沢市民の森があり、市民が自由に立ち入ることができる樹林地がある。

ブロック南部や国道 16 号沿いには商業施設が点在している。



写真 神崎川沿いの水田



写真 鷲神社

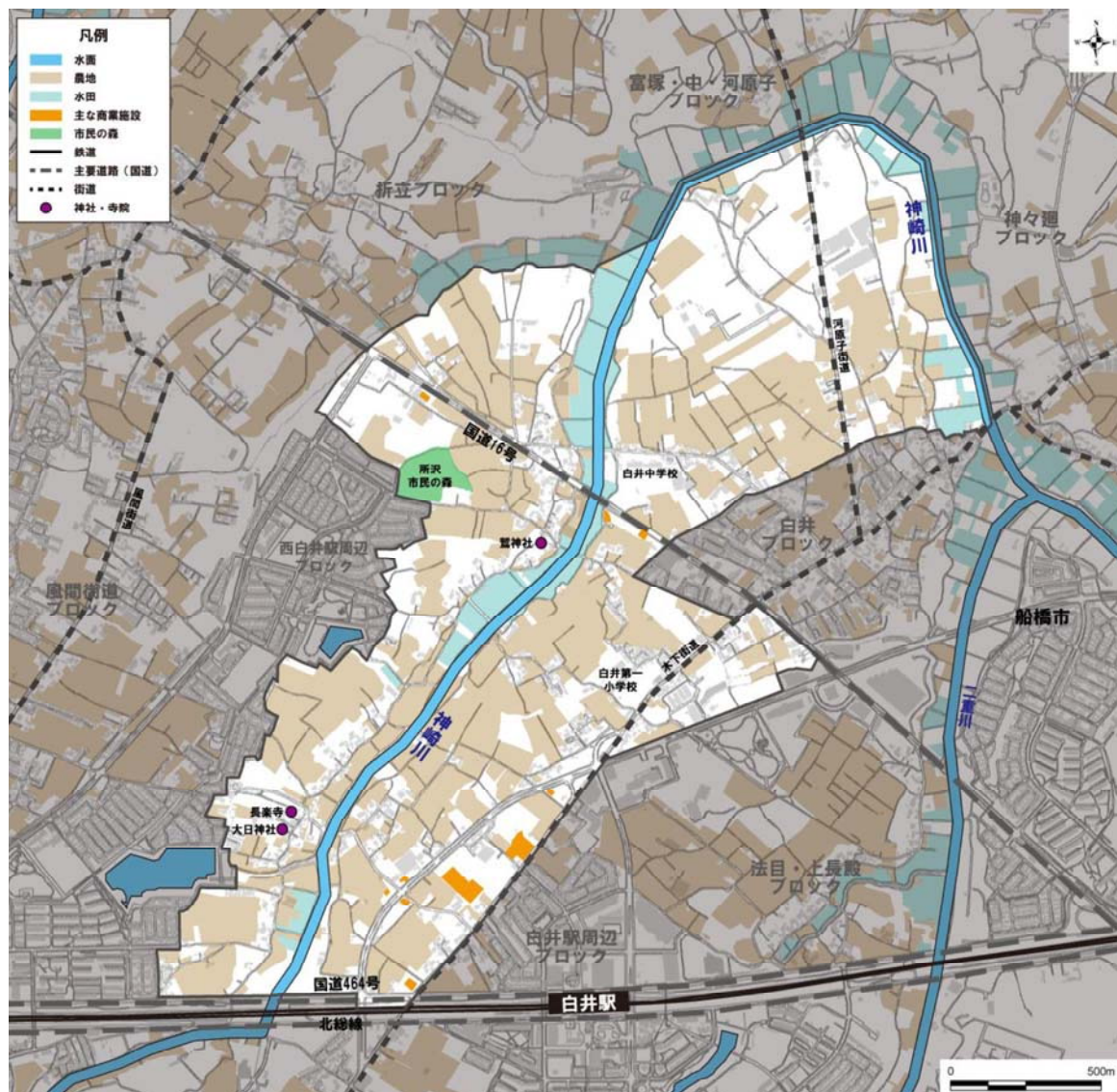


図 神崎川ブロックの景観・みどりの要素

③ 木下街道ブロック

■地形

神崎川に近いところは低地となっており、川から離れたところは台地となっている。

■歴史

かつての「白井木戸新田」に位置するブロックであり、白井木戸新田は江戸時代に開発が行われてきた村である。江戸時代に形成された中野牧の境界部が位置し、現在八幡溜野馬除土手として遺構が残っている。

木下街道沿いに集落が形成され、現在でもほぼ同様の位置に住宅が立地している。1982年に神崎川沿いに日本中央競馬会競馬学校（以下、競馬学校）が設立されたほか、2000年代に競馬学校東部に戸建ての住宅地が整備された。

■生態系

神崎川に沿ってヨシクラスの植生が分布している。競馬学校やその周辺でまとまった芝地がある他は果樹園（梨畑）が多いが、スギ・ヒノキ・サワラ植林や植栽樹群が点在している。

■土地利用

木下街道沿いの台地部には主に梨畑が広がる。

競馬学校周辺北西部の八幡溜周辺は樹林地となっており、神崎川の水辺とともに豊かな自然環境が育まれている。市民団体の活動エリアにもなっており、子どもたちが自然環境に触れ合える機会が創出されている。

木下街道沿いには店舗が点在している。



写真 神崎川沿いの樹林地



写真 八幡溜野馬除土手

（出展：白井市 HP）

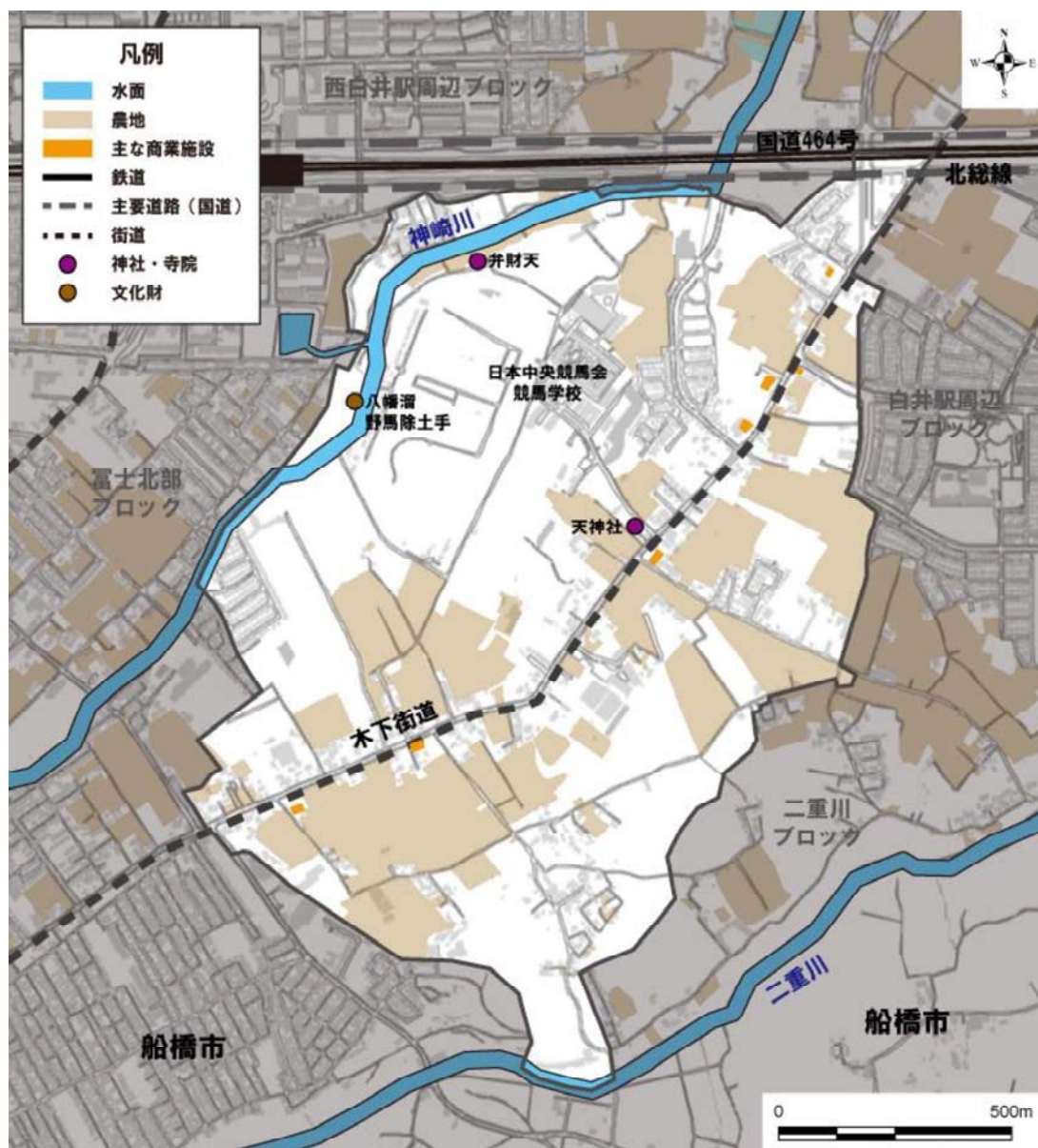


図 木下街道ブロックの景観・みどりの要素

④ 法目・上長殿ブロック

■地形

二重川・法目川に近いところは低地となっており、川から離れたところは台地となっている。

■歴史

富谷郷として鎌倉時代以前から台地縁に農村が形成されていた。現在でも台地と低地の境界部に集落が形成されている。

■生態系

二重川沿いには水田雑草群落（水田）が広がっており、果樹園（梨畑）が多く、クヌギ・コナラ群集などの樹林地等が点在している。ブロック内には復の特別保全緑地がある。

■土地利用

二重川・法目川沿いの低地部には水田、台地部には梨畑を中心とした畑が広がる。

台地と低地の境界部に集落が形成されており、生垣や屋敷林のある大きい民家が多く立地している。

ブロック内には八幡神社、佛法寺、熊野神社が立地しており、地域の人々の信仰の場となっている。八幡神社では毎年1月に「法目のオビシャ」が行われており、古来受け継がれてきた白井の民俗が継承されている。



写真 集落の生垣



写真 台地上の梨畑



写真 熊野神社



写真 法目のオビシャ

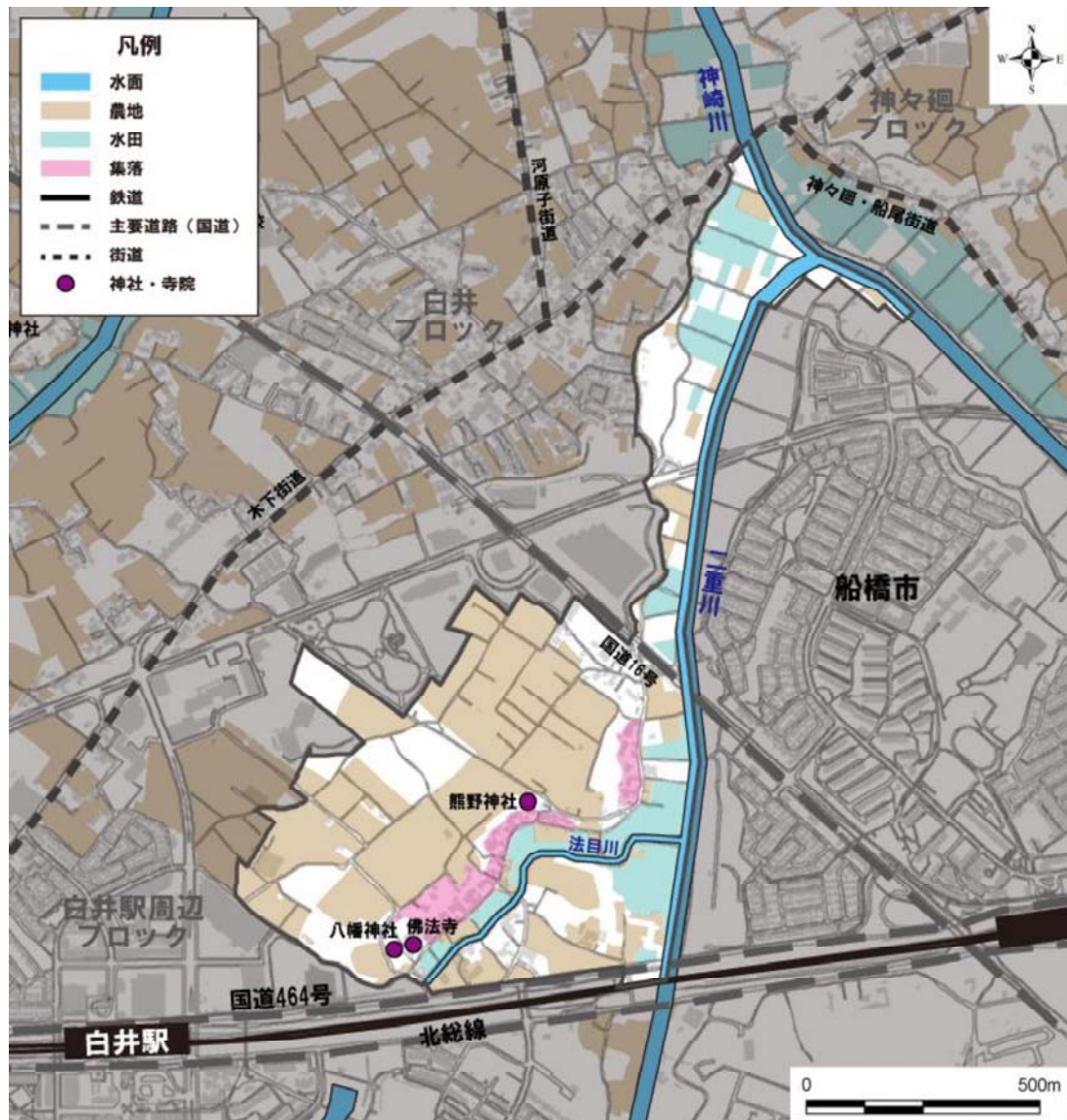


図 法目・上長殿ブロックの景観・みどりの要素

⑤ 富塚・中・河原子ブロック

■地形

金山落・神崎川に近いところは低地となっており、川から離れたところは台地となっている。

■歴史

ブロック西部（富塚）は白井郷富塚村として、江戸時代以前から台地縁に農村が形成されていた。ブロック東部（中・河原子）はかつての「中村新田」に位置するブロックであり、中村新田は江戸時代に開発が行われできた村である。中地区・富塚地区を通る鮮魚街道は、江戸時代に銚子の魚を新鮮なうちに江戸へ運ぶ道（鮮魚（なま）道）として発達した。鮮魚道沿いの富塚村には牧士の川上家があり、江戸への木炭輸送の経路でもあった。鮮魚道沿いに集落が発達し、現在でも鮮魚街道沿いに住宅が多く建っている。

■生態系

市街地（住宅地）、果樹園（梨畑）、畑雑草群落（畑地）、スギ・ヒノキ・サワラ植林が混在しており、神崎川へと注ぐ細い水路沿いにはヨシクラスの草本群落（湿地）が分布している。河原子周辺のまとまった樹林地ではオオタカが確認されている

■土地利用

金山落・神崎川沿いの低地部には水田、台地部には梨畑を中心とした畑が広がる。台地と低地の境界部、鮮魚街道沿いに住宅が立地している。

河原子地区南部には樹林地、中地区南部には谷地の湿地・草地（谷津）がみられる。

ブロック内には富塚鳥見神社、西輪寺などの神社・寺院が立地しており、地域の人々の信仰の場となっている。富塚鳥見神社本殿は壮麗な彫刻が施されており、市指定文化財となっている。



写真 富塚鳥見神社本殿

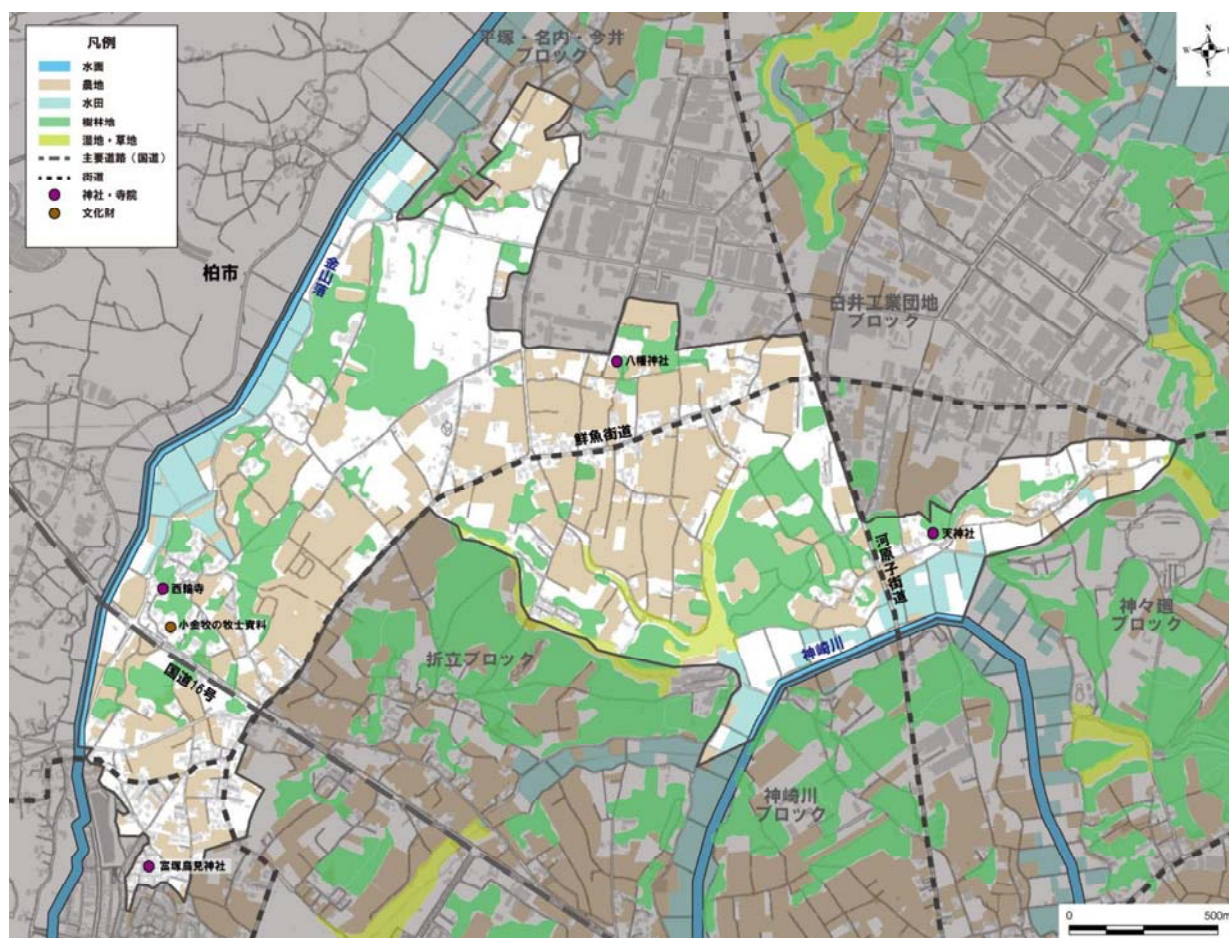


図 富塚・中・河原子ブロックの景観・みどりの要素

⑥ 十 余 一 ブ ロ ッ ク

■地形

比較的平坦な台地上に位置している。起伏は大きくないが、ブロック北部と東部で高低差が 5m 程度あり、緩やかな傾斜がブロック内にみられる。

■歴史

江戸時代は印西牧の一部として土地利用されていた。印西牧などの下総台地上の牧は明治 2 年（1869 年）に廃止となり、東京からの移住民が開墾を始めた。十 余 一 は 11 番目に入植・開墾が行われた。（11 番目に入植・開墾が行われたことに由来し「十 余 一」と名付けられたと言われている。）

■生態系

主に畑雑草群落（畑地）となっており、木下街道沿いに市街地（住宅地）が分布している。

■土地利用

全体的に畑が広がっている。木下街道沿いやブロック南部に住宅が多く建っている。



写真 畑

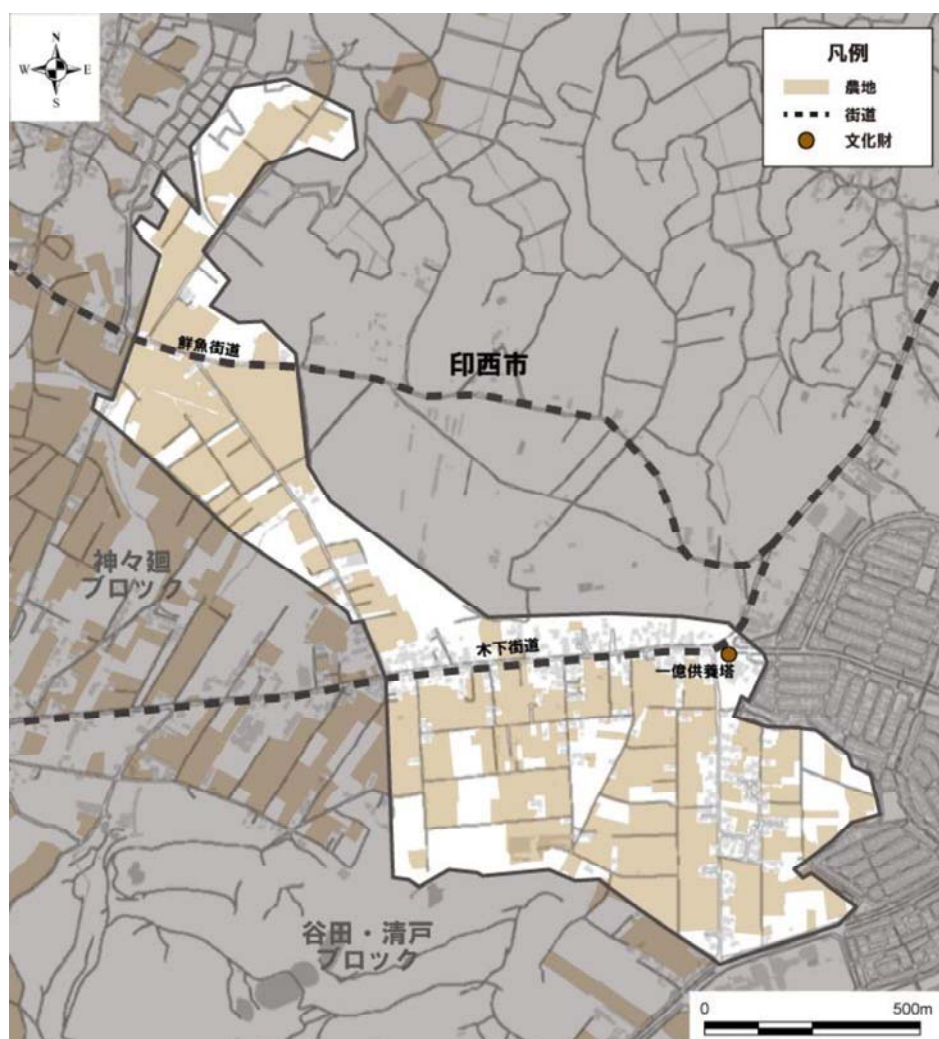


図 十倉一ブロックの景観・みどりの要素

(3) 里地里山のゾーン

1) 樹林地のエリア

① 谷田・清戸ブロック

■地形

神崎川沿いの低地と台地で構成されている。台地部には谷地の低地（谷津）がみられる。

台地部と低地部の境界は急な坂がみられ、地形の変化を感じることができる。

■歴史

矢田清戸郷として、江戸時代以前から台地縁に農村が形成されていた。現在でも台地と低地の境界部に集落が形成されている。

■生態系

スギ・ヒノキ・サワラ植林の中にゴルフ場・芝地が分布しており、一部の谷筋ではヨシクラスの草本群落（湿地）が分布している。水田と樹林地からなる里山や湿地がまとまって分布しており、サシバ、オオタカ、フクロウなどの猛禽類の営巣地や、メダカ、ヘイケボタル等の水生生物が確認されている。

■土地利用

神崎川沿いには水田、台地縁の低地部には集落、台地上の神々廻・船尾街道周辺は畑と土地利用が地形に準じて変化していく。ブロック北部は樹林地や草地になっており、里地里山の生態系が残る環境となっている。

ブロック内には清戸宗像神社、西福寺、薬王寺などの神社・寺院が立地しており、地域の人々の信仰の場となっている。西福寺には乳房公孫樹と呼ばれる地域の人々の信仰を集める巨樹がある。

清戸地区には船橋カントリー倶楽部があり、白井ゆかりの富澤誠造設計の、みどり豊かなゴルフ場が整備されている。

船橋カントリー倶楽部内にある清戸の泉や谷田地区北部の沢山の泉など、台地上からしみ込んだ地下水が湧水として湧き出ているスポットがある。

ブロック北部には印西牧の遺構である野馬除土手がある。

ブロック内は市民団体の活動エリアにもなっており、子どもたちが自然環境に触れあえる機会が創出されている。



写真 谷津



写真 神崎川



写真 清戸の泉



写真 西福寺の乳房公孫樹

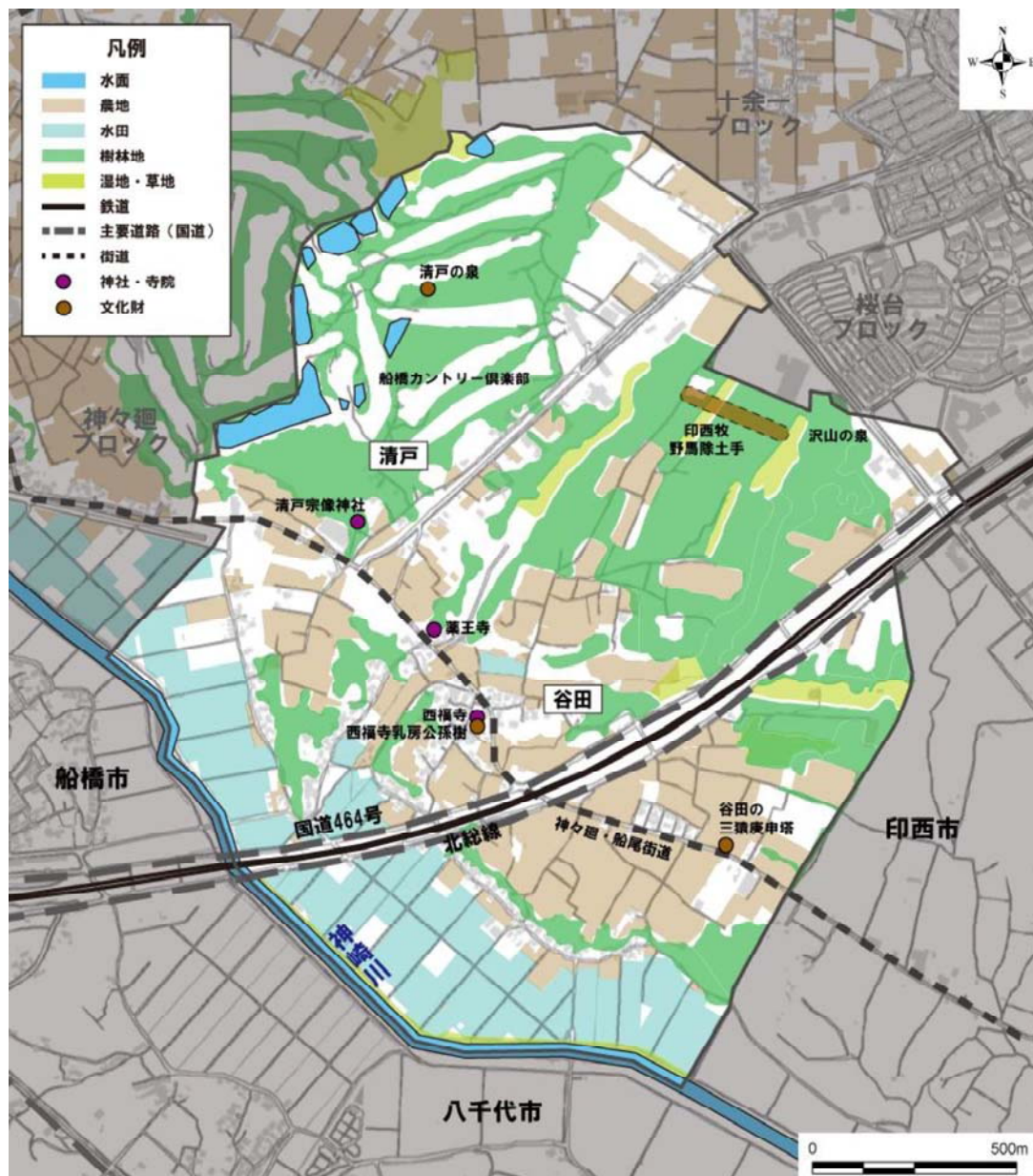


図 谷田・清戸ブロックの景観・みどりの要素

② 神々廻ブロック

■地形

神崎川沿いの低地と台地で構成されている。

台地部と低地部の境界は急な坂がみられ、地形の変化を感じることができる。

■歴史

志々はざま村として、江戸時代以前から台地縁に農村が形成されていた。現在でも台地と低地の境界部に集落が形成されている。

■生態系

畑雑草群落（畑地）が多く、スギ・ヒノキ・サワラ植林や果樹園（梨畑）が分布している。また、クヌギ・コナラ群集が点在し、神崎川沿いには水田雑草群落（水田）が広がり、一部にはハンノキ群落やヨシクラス、ケヤキ・シラカシ群落が分布している。白井運動公園の南側には神々廻市民の森がある。また、付近には樹林地、草地、湿地があり、多様な草地性植物や草地性昆虫が確認されている。

■土地利用

神崎川沿いには水田、台地縁の低地部には集落、台地上は畑や住宅と土地利用が地形に準じて変化していく。ブロック北部の白井運動公園周辺や、ブロック南部の船橋カントリー倶楽部周辺は樹林地となっている。台地上の木下街道沿いは住宅が多く立地している。

ブロック内には浅間神社、鳥見神社、駒形神社、神宮寺などの神社・寺院が立地しており、地域の人々の信仰の場となっている。

ブロック北部には白井運動公園や白井市民プールといったレクリエーション施設が立地している。

白井運動公園近くに神々廻市民の森があり、市民が自由に立ち入ることができる手入れされた樹林地がある。



写真 白井運動公園



写真 神々廻市民の森

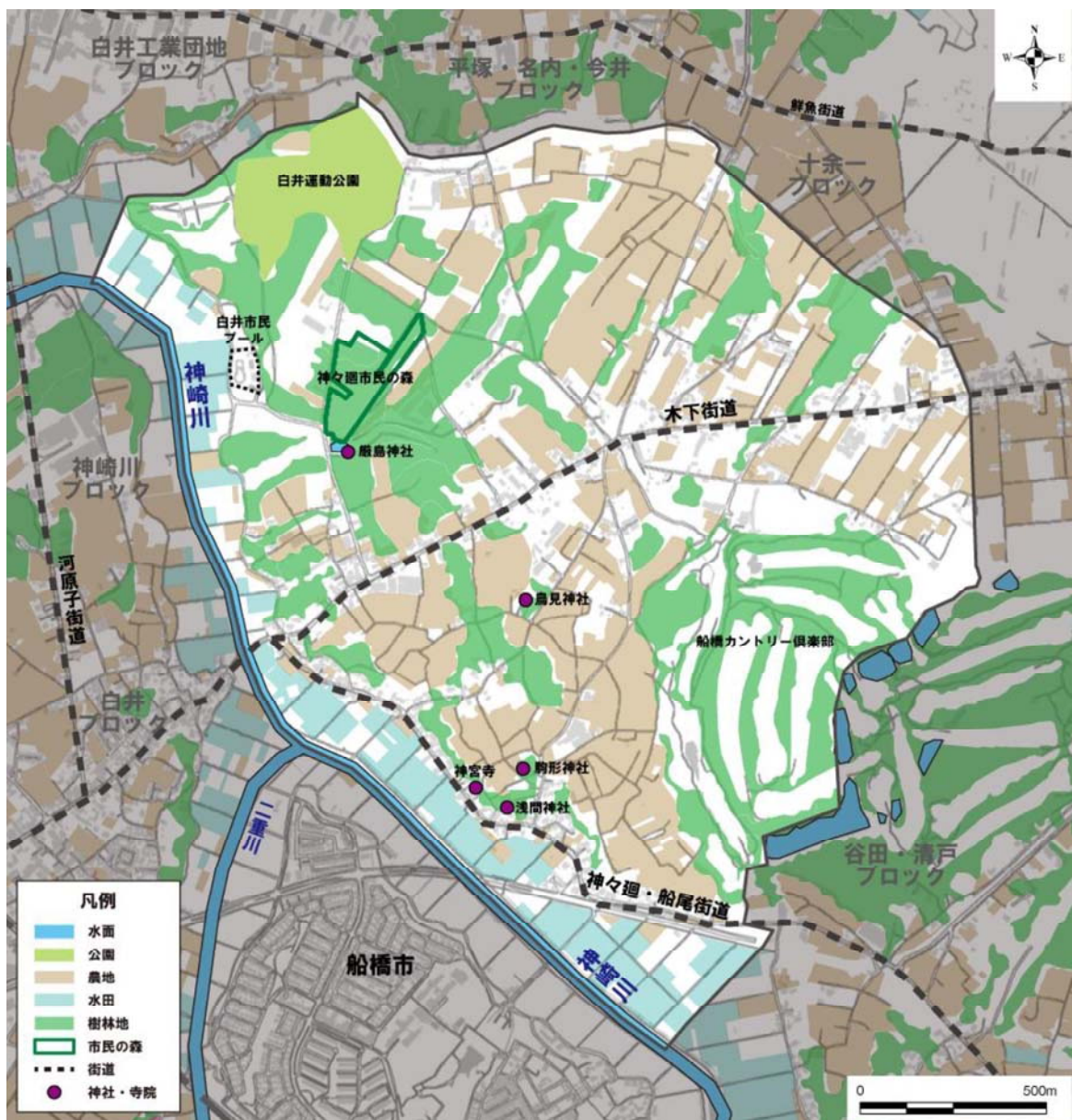


図 神々廻ブロックの景観・みどりの要素

③ 折立ブロック

■地形

台地上に位置している。台地部には谷地の低地（谷津）がみられる。

■歴史

折立村として、江戸時代以前から台地縁に農村が形成されていた。

■生態系

ブロックの北側にはスギ・ヒノキ・サワラ植林がまとまって分布しており、果樹園（梨畑）、畑雑草群落（畑地）、クヌギ・コナラ群集、水田雑草群落（水田）が混在している。樹林地がまとまって存在しており、オオタカやフクロウが確認されている。

■土地利用

谷津は水田、台地部は畑や住宅といった土地利用となっている。ブロック北部にはまとまった樹林地が広がる。

ブロック内には折立熊野神社・来迎寺などの神社・寺院が立地しており、地域の人々の信仰の場となっている。来迎寺には火伏の公孫樹と呼ばれる地域の人々の信仰を集める巨樹がある。来迎寺近くに折立菖蒲園があり、5月・6月頃に菖蒲が見ごろとなる。



写真 樹林地



写真 来迎寺の火伏公孫樹

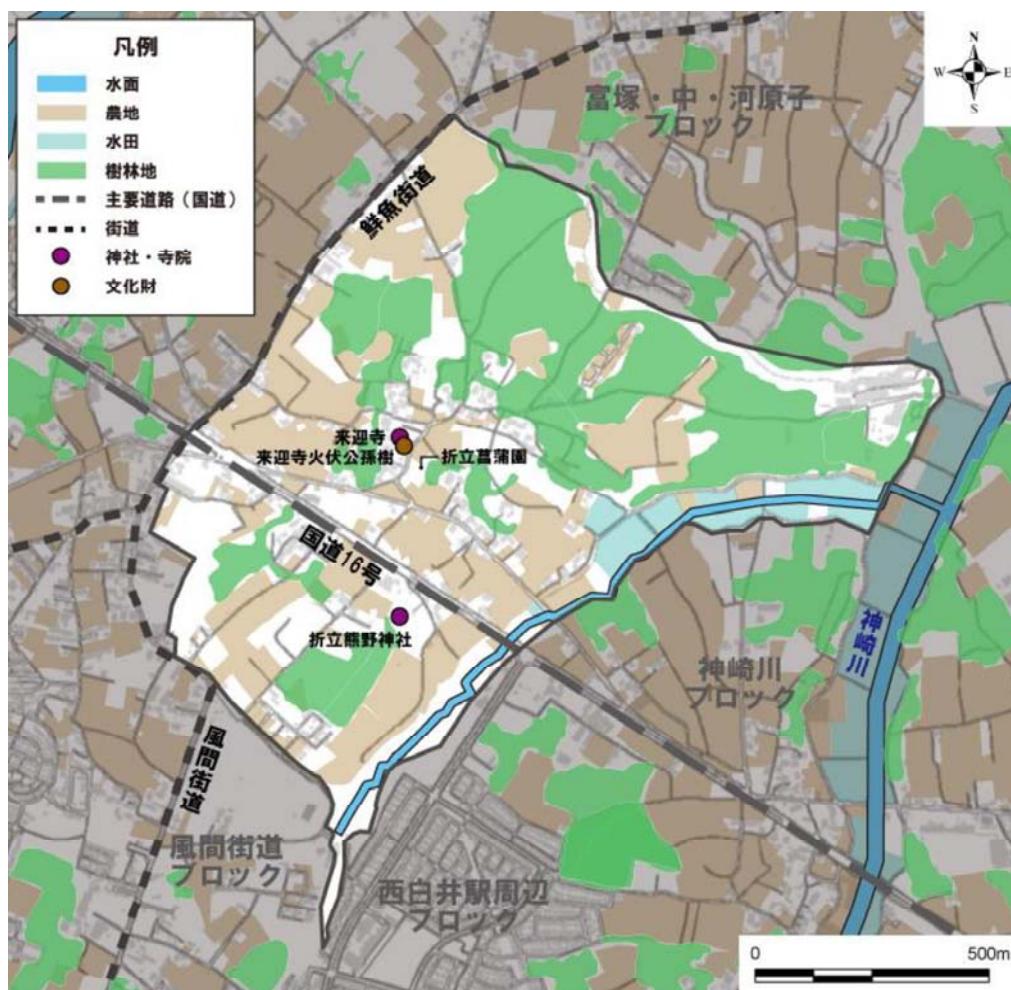


図 折立ブロックの景観・みどりの要素

2) 谷津のエリア

① 平塚・名内・今井ブロック

■地形

下手賀沼・金山落沿いの低地と台地で構成されている。台地部には谷地の低地（谷津）が発達しており、舌状の台地となっている。

台地部と低地部の境界は急な坂がみられ、地形の変化を感じることができる。

■歴史

平塚地区・名内地区はともに平塚郷として鎌倉時代以前から台地上に農村が形成されていた。現在でも台地と低地の境界部に集落が形成されている。今井地区はかつての「今井新田」に位置するブロックであり、今井新田は江戸時代に開発が行われてきた村である。

平塚村は江戸時代には河岸（船着場）があり、利根川・手賀沼の舟運と、松戸宿へ通じる鮮魚道の陸運とを結ぶ交通の要地であったとも考えられている。

■生態系

金山落に沿って水田雑草群落（水田）が広く分布しており、谷筋に沿って水田が入り組んだ形状で広がり、谷津を形成している。台地部には市街地（住宅地）が分布しているが、水田と台地部の間にはスギ・ヒノキ・サワラ植林やクヌギ・コナラ群集などの樹林地が分布し、里山景観を形成している。ブロックの西側には、畑雑草群落（畑地）や果樹園（梨畑）が分布している。サシバ、オオタカのほかに、ノスリやチョウゲンボウなどの猛禽類が確認されており、谷津では湧水が多くあり、広くヘイケボタルが確認されている。また、水田ではトウキョウダルマガエルも確認されている。

■土地利用

主に下手賀沼・金山落沿いの低地は水田、谷津は水田や畑、台地部は集落・畑・樹林地といった土地利用となっている。

平塚地区には延命寺、平塚鳥見神社、八幡神社、名内地区には名内鳥見神社、栗嶋神社、東光院などの神社・寺院が立地しており、地域の人々の信仰の場となっている。

平塚地区北部にある滝田家住宅は国指定重要文化財となっており、江戸時代に建造されてから300年以上現存し、かつ現在も居住をしている貴重な文化財である。

ブロック北部を通るカンナ街道は、かつては周辺の地域住民が植えたカンナの花が道沿いに咲いていた。現在も各所にカンナが咲き、名残が残っている。

平塚地区にはかつての小学校の敷地・建物が残る旧平塚分校があり、現在は周辺の里地里山をフィールドに保全・活用等に関する活動を行うNPO法人の事務所として使用されているほか、ドラマの撮影にも活用されている場所である。

金山落沿いには「今井堤」と呼ばれる堤防があり、堤防上に桜が植えられている。「今井の桜」として市内外からも多くの人々が来訪する花見のスポットとなっている。

カンナ街道沿いには「今井の水塚」と呼ばれる、河川や湖沼の氾濫から生活を守るために築かれた土盛りやその上に建てられた建造物がある。洪水に備える人々の知恵が残る貴重な文化財となっている。



写真 谷津田



写真 下手賀沼周辺の低地



写真 延命寺



写真 滝田家住宅



写真 旧平塚分校



写真 今井の桜

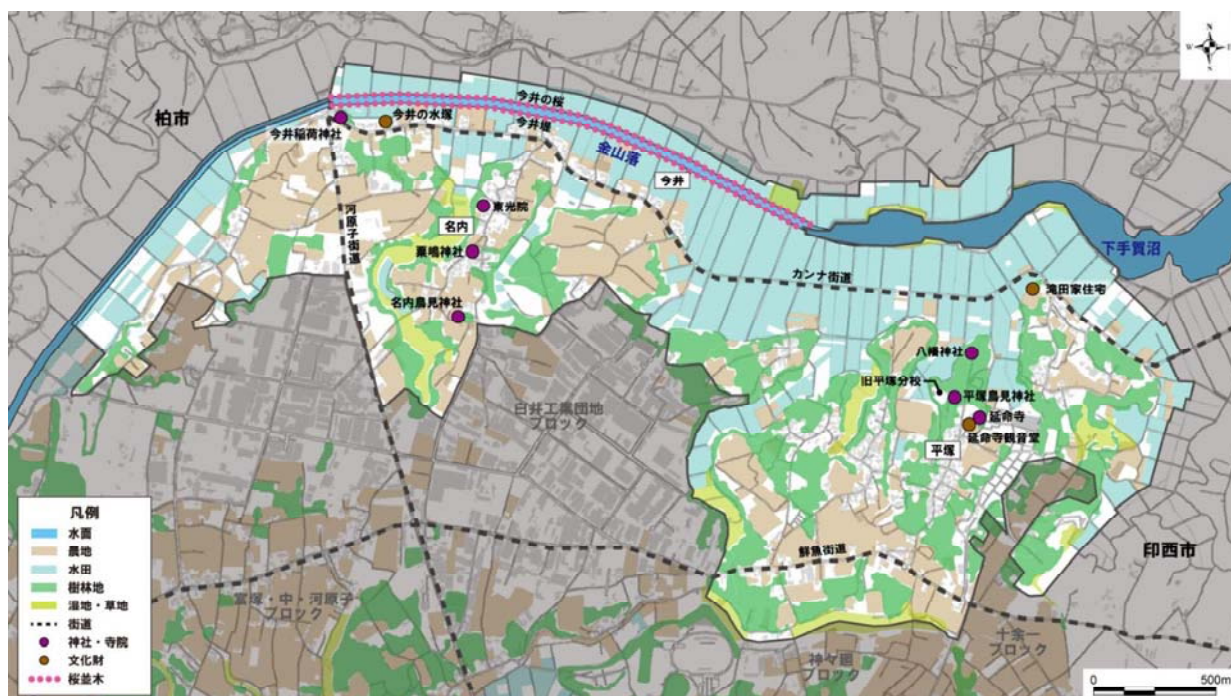


図 平塚・名内・今井ブロックの景観・みどりの要素

3) 水辺のエリア

① 二重川ブロック

■地形

二重川沿いの低地と台地で構成されている。

台地部と低地部の境界は急な坂がみられ、地形の変化を感じることができる。

■歴史

富谷郷として、鎌倉時代以前から台地縁に農村が形成されていた。現在でも台地と低地の境界部に集落が形成されている。

■生態系

二重川に沿って細長い形状で放棄水田雑草群落が分布しており、局所的にまとまって果樹園（梨畑）が広がっている。また、シイ・カシ二次林やケヤキ・シラカシ群落、クヌギ・コナラ群落などの樹林地が点在している。二重川の対岸（船橋市域）には船橋県民の森があり、連続した緑地が形成され、多くの鳥類やニホンアカガエルなどの水生生物が確認されている。

■土地利用

二重川沿いの低地は主に湿地や草原となっており、台地縁の低地部に集落が形成されている。台地部は主に果樹園や樹林地となっている。

ブロック内には鳥見神社、香取神社、光明寺、平等寺などの神社・寺院が立地しており、人々の信仰の場となっている。

富ヶ沢地区では邪悪なものが外から侵入しないように地区の境界に設置する辻切り行事が現在も行われており、古来受け継がれてきた白井の民俗が継承されている。



写真 二重川



写真 富ヶ沢の辻切り

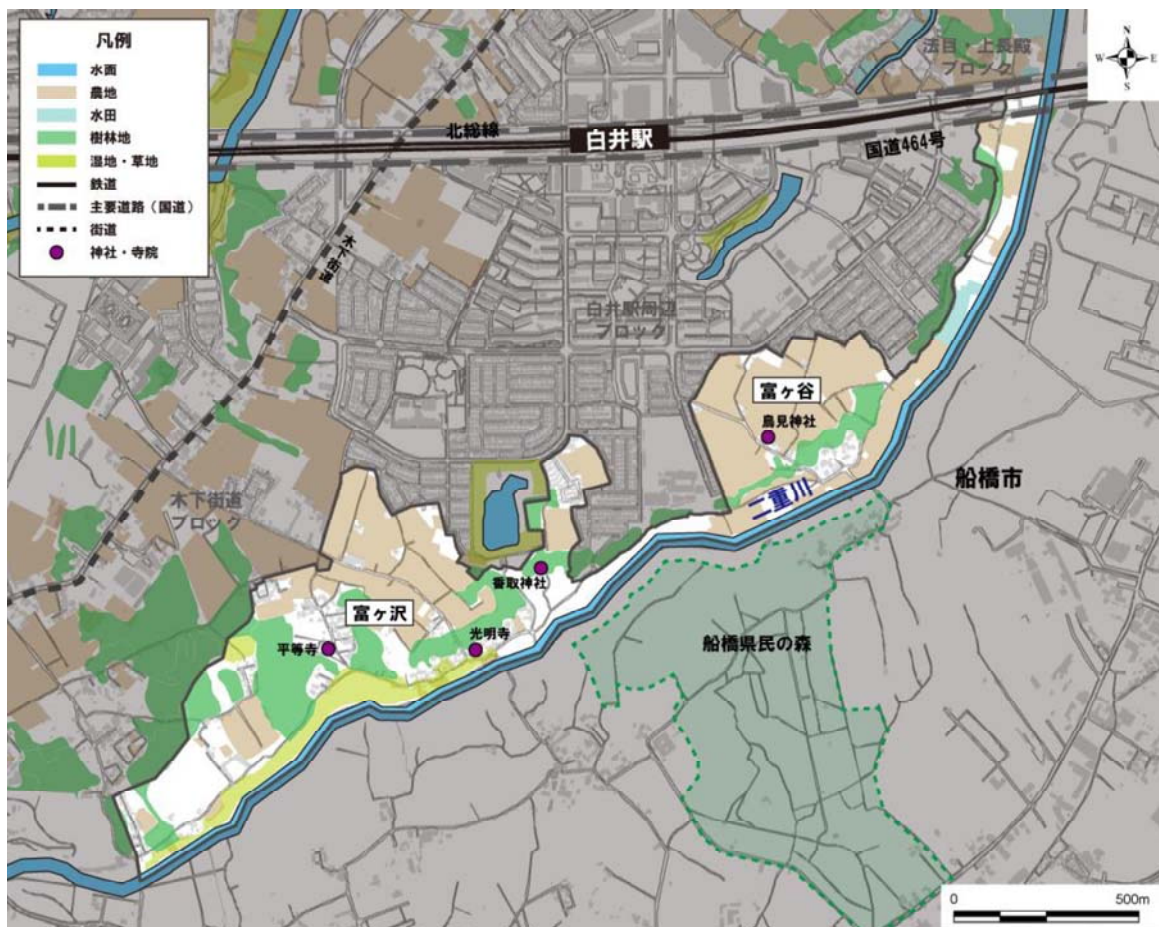


図 二重川ブロックの景観・みどりの要素

(4) 景観とみどりの骨格軸

① 北総線・国道 464 号

国道 464 号沿いには桜並木があり、春の桜並木の風景は白井駅周辺ブロック・西白井周辺ブロックの住民を中心に市民に親しまれている。

また、跨線橋は富士山や夕日が眺められるビュースポットとなっている。



写真 国道 464 号沿いの桜並木

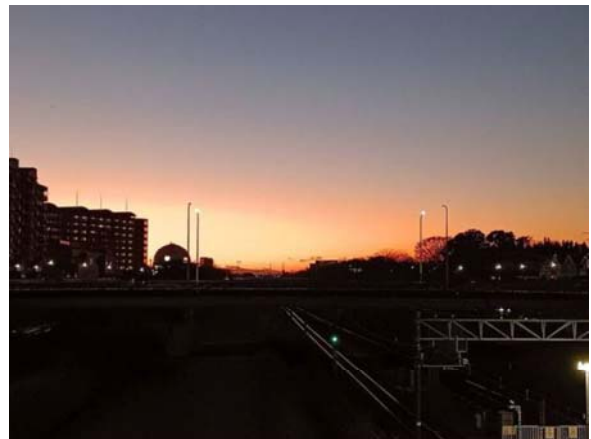
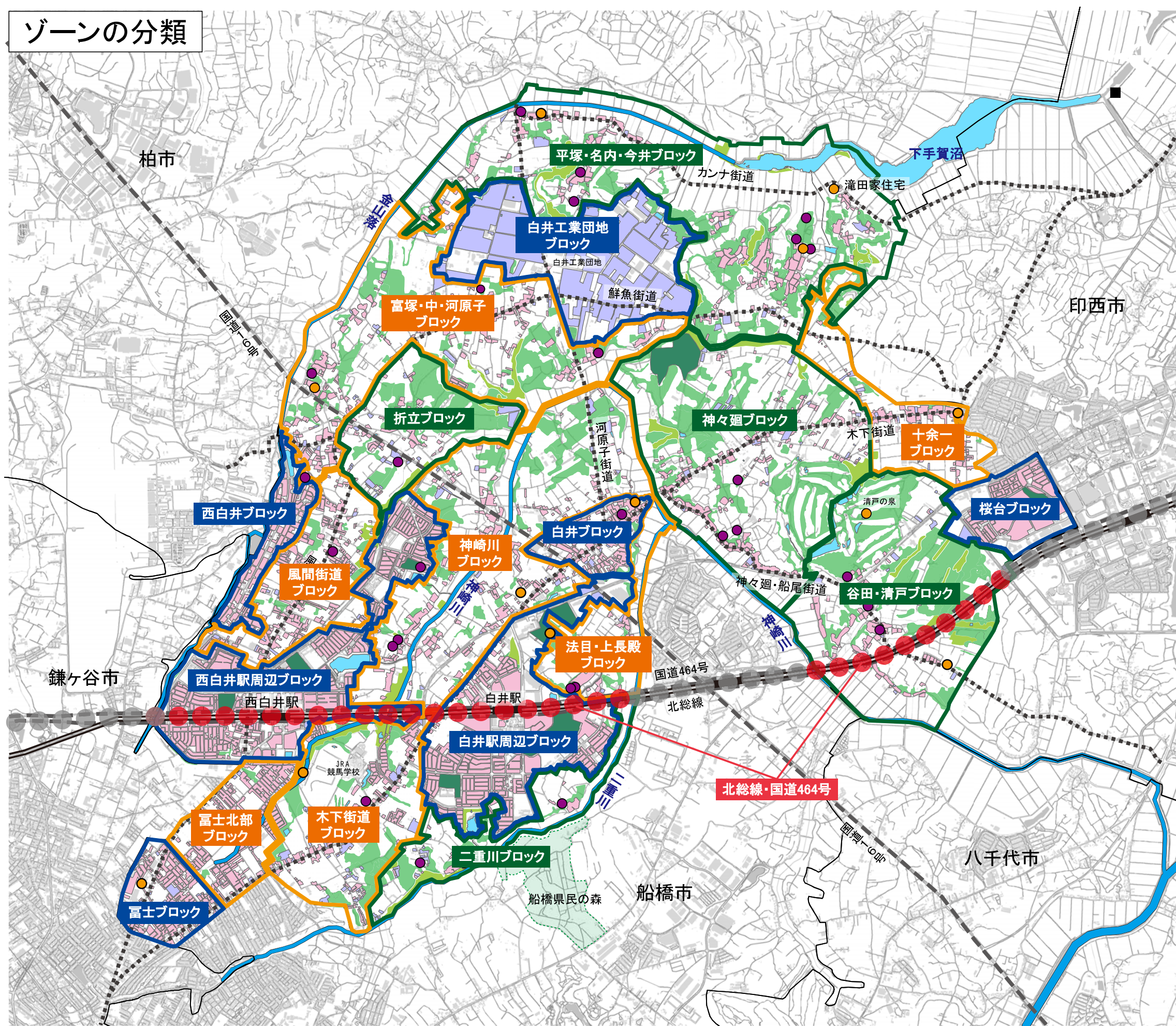


写真 跨線橋から眺められる夕日



図 北総線・国道 464 号の景観・みどりの要素

ゾーンの分類



凡例

■土地利用等

- 湿地・草地
- 樹林地
- 水面
- 住宅用地
- 工業用地
- 公園(近隣公園・地区公園・運動公園・総合公園)
- 河川
- 行政界

■施設

- 鉄道
- 国道
- 街道
- 神社・寺院
- 文化財(国・県・市)

■ゾーン分類

- 都市のゾーン
- 農と住まいのゾーン
- 里地里山のゾーン
- 景観とみどりの骨格軸
- 景観とみどりの骨格軸(市外部)

出典

- 土地利用等
 - 【湿地・草地、樹林地】
 - ・環境省自然環境局生物多様性センター 現存植生図
 - 【水面・住宅用地・工業用地】
 - ・千葉県県土整備部都市整備局都市計画課 『第11回都市計画基礎調査』(令和3年度)
 - 【公園(近隣公園・地区公園・運動公園・総合公園)】
 - ・白井市『令和5年度 公園・緑地等配置図』
- 施設
 - 【神社・寺院】
 - ・千葉県HP(宗教法人一覧)
 - 【文化財】
 - ・白井市地域防災計画

135,000

